

令和5(2023)年度
高知大学
グローバル教育支援センター年報

2024年3月発行

令和 5(2023)年度 年報目次

はじめに	1
1. グローバル教育支援センター基本方針	3
2. 組織	4
(1) 組織図	
(2) スタッフ	
3. 活動報告	5
3.1 セミナー・ワークショップ	
(1) JICA 海外協力隊セミナー	
(2) 海外留学フェア	
(3) 海外留学ワークショップ (第 1 学期・第 2 学期)	
(4) 協定校間特別セミナー (第 1 学期・第 2 学期)	
(5) 講演会	
3.2 海外派遣留学	12
(1) 海外留学説明会 & 留学体験報告会 (第 1 学期・第 2 学期)	
(2) 留学準備モジュール	
(3) 個別留学相談	
(4) トビタテ! 留学 JAPAN	
(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞	
3.3 交流活動	17
(1) 大豊町における茶摘み体験 (地域交流事業)	
(2) Culture Cafe (第 1 回・第 2 回)	
(3) 留学生歓迎イベント	
(4) 留学生見学旅行	
(5) 大豊学園との交流 (第 1 回・第 2 回)	
(6) スウェーデン聖ルシア祭	
3.4 留学生ガイダンス	28
(1) 留学生履修説明会	
(2) 留学生オリエンテーション (第 1 学期・第 2 学期)	
(3) 帰国準備説明会 (第 1 学期・第 2 学期)	

3.5 受入れに関するリクルート活動	31
(1) 2023 年外国人学生のための進学説明会 (in 東京)	
(2) ジーベック外国人留学生のための進学相談会 (in 高松)	
(3) ジーベック外国人留学生のための進学相談会 (in 岡山)	
(4) 学校法人エール学園進学相談会 (オンライン ZOOM)	
(5) 2023 年外国人学生のための進学説明会 (in 大阪)	
(6) ECC 国際外語専門学校進学説明会 (in 大阪)	
4. 授業関連	34
4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース (第 1 学期・第 2 学期)	
4.2 共通教育開講科目	45
(1) 地域文化理解	
(2) サマープログラム (Japanese Studies I / II)	
(3) 短期留学プログラム (第 1 学期・第 2 学期)	
(4) GEASC 英語コース	
5. その他	52
(1) 外国人留学生在籍状況	
(2) 自律学習支援センター (OASIS) との連携	
参考資料	54
(1) 交流協定校一覧 (大学間・部局間)	
(2) 海外派遣学生一覧	

奥付

はじめに

グローバル教育支援センター長 今井 典子

グローバル教育支援センター(Global Education and Advancement Support Center)が設立されてから初めて本年度、年報を発行することになりました。グローバル教育支援センターは、高知大学が掲げる「高知大学 Grand Design 2030」の「グローバル化：地域と世界を繋ぎ、未来を拓く国際人材の育成」をめざし、特に教育の視点からキャンパスの国際化と国際性を涵養する人材の育成を図るために 2022 年 10 月に設立されました。前身である「高知大学国際連携推進センター」では、国際プロジェクト部門と国際連携教育部門の 2 つの部門で構成され、それぞれの部門に教員が配置されていましたが、減少した人員の観点から、また業務内容を効率的に、かつ協力的に推し進めるために、部門を廃止して運営を開始しました。設置時は、まだコロナ禍中であり、日本での学びを希望する海外からの留学生が渡日できないまま、そして海外への留学を希望する高知大生が渡航できないまま 2 年半が過ぎ、そしてようやく協定校からの受入れ、そして派遣が再開されるようになったちょうどその時期でありました。設置時期は、まだまだパンデミックの影響を受けていましたが、コロナ禍前には主流ではなかったオンラインを活用した国際交流が実施されていたことは特徴的であると言えます。現地での交流ができなかった中で、オンラインであっても、交流を通して言語のみならず多種多様な文化や価値観に触れ、理解に結びつくことができるように工夫をしながら取り組んできました。

2023 年度を振り返ると、2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行されたこともあり、本格的に海外協定校からの受入れ、そして海外協定校への留学がコロナ禍前に戻りつつあった年と言えます。そのため、第 4 期中期目標・中期計画（2022 年度～2027 年度）の実現に向けて、センターのミッションでもある留学促進に向けて様々な取り組みを実施してきました。例えば、留学説明会、留学フェア、留学ワークショップ、協定校間特別セミナー、講演会、危機管理セミナー、カルチャーカフェ、自律学習支援センター（OASIS）との共催による語学力向上プロジェクトやグローバルキャリアや留学に関するセミナーの開催などです（詳細は本年報にて紹介）。本年度、留学相談件数もかなり増えており、学生の留学への関心も高くなってきていると言えます。また、嬉しいことに、コロナ禍により中断していたサマープログラムを再開できたことも大きな前進でした。新たな取り組みとして、それまでのグローバル・コミュニケーション・プログラムを改め、Short-term Study Abroad Program（短期留学プログラム）とし、「長期の海外協定校留学につなげる」、「協定校留学を希望しない短期留学希望者のニーズに応える」ことを目的として、積極的に取り組まれました。

留学生の受入れに関しても、留学生の日本語学習支援を目的に 3 キャンパスに日本語総合コースを開講し、日本語初級から日本語中上級のクラスを設けています。加えて、協定校との遠隔授業や協定校間特別セミナーの実施、ビジネス講演会の開催、見学旅行の実施等を通して、協定校との連携強化、留学生の日本文化・地域文化に対する理解の深化につながる取り組みを行ってきました。その他共通教育において、留学生対象の日本語科目や「地域文化理解」を開講し、留学生と日本人学生との国際共修による課題解決型授業を実施しています（詳細は本年報にて紹介）。

2024 年度に向けて、留学促進に向けた取り組み、海外からの優れた留学生の受入れの促進（リクルート）、留学生と高知大生との交流イベントの開催を継続させるとともに、より充実させるため内容を検討していきたいと思っております。海外協定校に関しては、特に中国、台湾、韓国への協定校への留学希望者数が、英語での留学希望者数と比較すると少ないため、学生に十分なる情報提供をし、留学を促進していくよう取り組んでいきます。また、今後は、海外協定校留学の参加にもつながるセンター提供の Short-term Study Abroad Program の充実、例えば、語学研修に加え、SDGs に関連したことについて学ぶことができるような内容、語学研修先の選択肢の拡充を検討したいと考えています。一人ひとりの留学希望者を支援するために、また、正規生や協定校からの留学生への支援を充実させるためには、各学部・専攻での専門教育における海外派遣や交流事業、共通教育における英語科目の充実など、学内での連携を強化しつつ進めていく必要があります。多様な言語・多様な視点を持つ海外からの留学生と本学学生・教職員との交流を促し、キャンパスの国際化を推進するとともに、地域の様々な国際交流機関との連携を深め、地域の国際化に貢献していきたいと考えています。

1.グローバル教育支援センター基本方針

センターの基本方針は大きく以下の3点である。

(1) 海外との教育交流の推進によるキャンパスの国際化

国際的な学生交流を推進、そして外国人留学生と日本人学生との交流を通して、互いに学びあうキャンパスを創造し、キャンパスの国際化を実現する。

(2) 外国語教育プログラムや学生の海外派遣の支援体制の充実による「希望者全員留学」の実現

英語をはじめ外国語の語学力向上のための講座提供の充実を図るとともに、留学相談により日本人学生の海外留学支援を行う。また、留学フェアやワークショップ、セミナーの開催などにより留学への意識を高める。

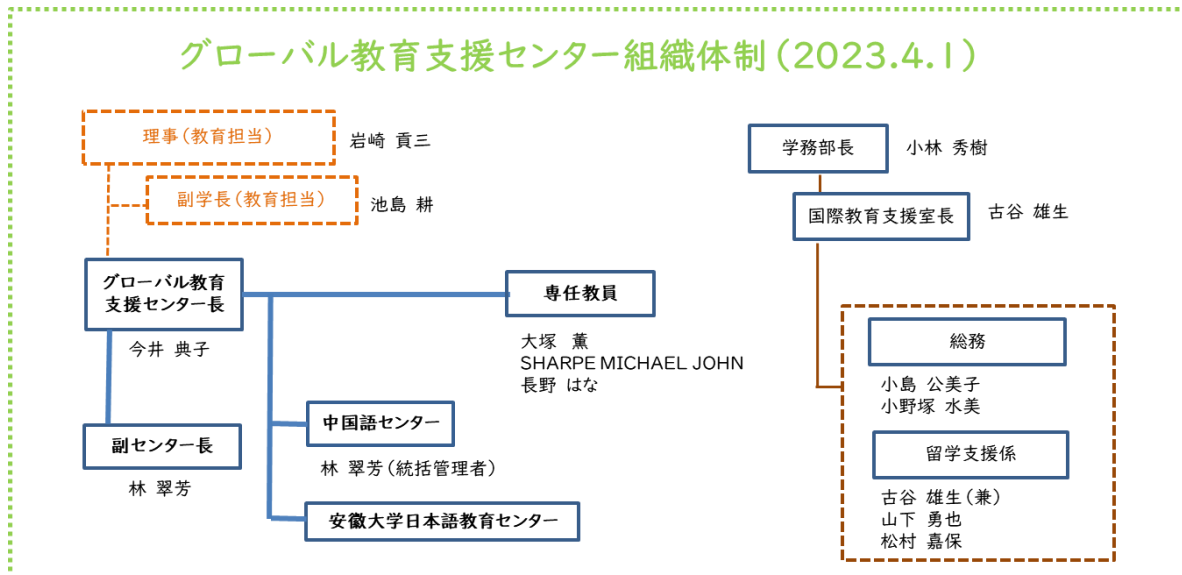
(3) 海外からの優れた留学生の受入の促進と留学生に対する日本語教育の充実

留学生の獲得に当たっては、協定校からの短期留学のみならず、私費留学生、国費留学生など長期留学生を積極的に獲得する。留学生に対しては、修学上及び生活上の指導助言を行なう。また、外国人留学生に対する日本語・日本文化・日本事情に関する教育を行う。



2. 組織

(1) 組織図



(2) スタッフ

副学長(教育担当)	池島 耕
グローバル教育支援センター長	今井 典子
副センター長	林 翠芳
専任教員(教授)	大塚 薫
専任教員(准教授)	SHARPE MICHAEL JOHN
専任教員(特任助教)	長野 はな
[学務部国際教育支援室]	
国際教育支援室長	古谷 雄生
[国際教育支援室(総務)]	
国際教育支援室専門職員	小島 公美子
国際教育支援室事務補佐員	小野塚 水美
[国際教育支援室留学支援係]	
国際教育支援室留学支援係長(兼)	古谷 雄生
国際教育支援室留学支援係員	山下 勇也
国際教育支援室留学支援係事務補佐員	松村 嘉保

3. 活動報告

3.1 セミナー・ワークショップ

(1) JICA 海外協力隊セミナー「海の向こうの暮らし方」

5月24日(水)15時00分～16時30分、朝倉キャンパスにおいて、本学学生を対象にセミナー「海の向こうの暮らし方」を開催し、17名の学生が参加した。青年海外協力協会(JOCA)の山本果奈さん、国際協力機構(JICA)高知デスクの和田安史さんが登壇し、JICA 海外協力隊としてキルギス、ガーナなどに赴任された際の経験について語った。日本と異なる文化、習慣を持つ国で暮らして苦労したことや、現地の人々と円滑なコミュニケーションをとるにはどうすればよいかなど、海外で生活する上で参考になる話もして頂いた。実施後のアンケートでは、参加学生から「もともと海外協力隊に興味があったが、セミナーに参加してモチベーションが高まった。」「自分が得意なことや、好きなことを生かして仕事にすることは素敵だと思った。」といったコメントがあり、セミナー参加を通じて海外への関心が高まった様子だった。

会場の様子



JOCA セミナーの様子



JICA セミナーの様子

(2) 海外留学フェア

時間：2023年5月31日 12:00-16:00

場所：朝倉キャンパス学生会館2階

概要：グローバル教育支援センターが主催する留学プログラムを高知大学の学生に広める目的で、留学フェアが第1学期半ばに開催された。このイベントでは、学生たちは、展示やセンタースタッフとの対話を通して、短期留学や長期留学のさまざまな選択肢について学ぶことができた。また、提携大学への留学経験のある学生によるプレゼンテーションも聞くことができた。合計13名の学生が参加したが、これは以前のイベントより少なかった。次年度は、より良い場所でイベントを開催し、より多くの聴衆に宣伝する予定である。



資料：海外留学フェア案内



会場の様子

(3) 海外留学ワークショップ（第1学期・第2学期）

グローバル教育支援センターは、毎学期、海外留学に向けて具体的な準備を進めたい学生を対象に海外留学ワークショップを開催しており、2023年度は下記日時で計4回実施した。人文社会科学部・橋本由紀子先生が講師を務め、第1学期の参加者は21名、第2学期の参加者は15名だった。

<第1学期開催>

【開催日時】第1回：6月21日（水）15:00～16:20

第2回：6月28日（水）15:00～16:20

6月21日に開催された第1回では、参加学生は、本学次世代地域創造センターの佐藤公平特任教授から、国際協力機構（JICA）の活動や自身の留学体験、国際協力の現場で求められている人材像についての講演を聞き、グループワークを通じて希望の留学先や留学の目的、実現に向けたハードルなどについて話し合った。同月28日の第2回では、本学で勉強しているマレーシアの留学生から、日本への留学に際しどのような計画を立て、準備を進めたのかについて聞くとともに、留学計画の立て方や英文履歴書の書き方などについて学んだ。

<第2学期開催>

【開催日時】第1回：11月8日（水）15:00～16:20

第2回：12月6日（水）15:00～16:20

11月8日に開催した第1回では、JICAの北野航さんが、留学やインターンシップ経験、国際協力分野の仕事に関する講演をし、学生から海外留学に関する質問などを受けた。講演後、参加学生は、グループに分かれ、それぞれの希望の留学先や留学の目的などについて話し合った。

12月6日（水）の第2回では、本学に留学しているマレーシア人学生から、日本へ来る前にどのような留学計画を立てたのかについて聞くとともに、自身の留学計画について考えた。



佐藤特任教授による講演



留学計画の立て方について意見交換

(4) 協定校間特別セミナー（第1学期・第2学期）

<第1学期開催>

《異文化コミュニケーションと相互理解》

講師：釜山外国語大学校 三國 喜保子 助教授



2023年6月21日(水)に高知大学グローバル教育支援センター主催の協定校間特別セミナーが行われた。講師には、韓国の協定校の釜山外国語大学校日本語融合学部 of 三國喜保子助教授をお招きし、「異文化コミュニケーションと相互理解」というテーマで学生とやりとりをしながら講義が行われた。今回のセミナーは韓国から三國先生に接続していただき Microsoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である中国の安徽大学と釜山外国語大学校の学生にもアクセスいただき、合計60名ほどの参加となった。

セミナーは、様々なバックグラウンドを持つ人と接する機会が増えてきた多文化共生社会において日本と韓国の身近な事例を比較し、文化やコミュニケーションの特徴について考えてみるという目的で行われた。また、セミナーでは具体的に日本と韓国の文化やコミュニケーションの特徴についてケーススタディをしながら参加した学生がそれぞれ相互理解のために大切なことを再考し、自文化を客観的に捉える貴重な機会となった。



参加した方々からは「違う国で暮らす中で必要なことはその国の言語力だけではなく、コミュニケーション能力や異文化を理解する力も大事だとわかった」、「日本人は、細かいことにもお礼を伝えるように言い聞かされて育った人が多いと思うが、韓国では、家族や友達は頼るものであるため、お礼を言いつぎるとマイナスな印象を持たれてしまうというのは、かなり印象的だった」、「自分たちが高文脈文化に位置していることを理解し、その文化が必ずしもすべての言語、文化に共通すると誤解しないことが大切だと感じた」、「ケーススタディなど三國先生の実際にあった経験からよりリアルに異文化理解について学ぶことができたため、貴重な経験ができた」、「一緒に参加した協定校の学生とは考え方や、着眼点など異なる部分がたくさんあり、新たな発見をすることができるので非常に楽しかった。ぜひまた機会があれば参加したい」等の感想が寄せられ、セミナーを通して充実した交流の時間が共有できたことを主催者として大変嬉しく思う。

<第2学期開催>

《クリティカルシンキングによる論理的な伝え方》

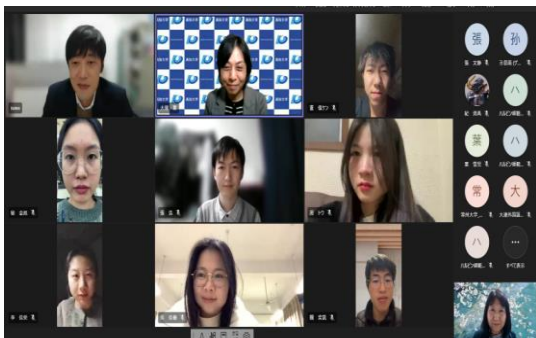
講師：釜山外国語大学校 諏訪 昭宏 副教授



2023年12月13日(水)に高知大学グローバル教育支援センター主催の協定校間特別セミナーが行われた。講師には、韓国の協定校の釜山外国語大学校日本語融合学部の諏訪昭宏先生をお招きし、「クリティカルシンキングによる論理的な伝え方」というテーマで学生とコミュニケーションを取りながら講義が行われた。今回のセミナーは韓国から

諏訪先生に接続していただき Microsoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である中国の北京聯合大学、安徽大学、常州大学や大連外国語大学、ハルビン師範大学からもアクセスいただき、合計70名ほどの参加となった。

セミナーは、相手を納得させる論理的な伝え方とはどのようなものなのかを考え、批判的な思考に基づいた論理的な伝え方を身につけるという目的で行われた。セミナーの中では、最初に論理的とは「ある主張について理由から結論に至る筋道が適切になるよう考える」ことであり、論理的思考を強めるために「批判的思考」が必要だということを学んだ。そして、論理的に話す「3要素」である「主張が明確」「理由が明白」「論理シグナル(接続詞)使用」を押さえ、相手に分かりやすく説明し説得する方法を学び、多様な例を挙げながら実際の運用につながる論理的な伝え方を学ぶ機会になった。



参加した学生からは、「先生のセミナーは論理がしっかりしていて理解しやすく、インタラクティブで授業への参加感が増す」、「論理的について様々なことを学べ、人生に非常に重要なスキルであることが理解できた。大学だけではなく、職場でもこのスキルを持たなければならない」、「論理的な伝え方のテクニックや意見を伝える活動と反対意見を述べる

重要性を示してくれた点が印象に残った。他者の視点や反対意見を理解することで、より多様な議論や意思疎通が可能になることを学んだ」、「異なる国際的な視点から授業を受けられ、海外の方の意見もしっかり聞けることはクリティカルシンキングにも大変役立った」、「海外の学生と一緒に授業を受けるのは国際会議のような感じで、グローバル化による意識のぶつかり合いをより実感できる」等の感想が寄せられ、セミナーを通して充実した時間が共有できたことを非常に嬉しく思う。

(5) 講演会

《キャリア形成に必要なビジネスコミュニケーション—日本企業を例に—》

講師：成蹊大学 鈴木 賞子 教授



2023年11月15日(水)に高知大学グローバル教育支援センター主催によるオンライン講演会が行われた。講師には、成蹊大学(経営学部教授)の鈴木賞子氏をお招きし、「キャリア形成に必要なビジネスコミュニケーション—日本企業を例に—」という演題でお話をうかがった。高知大学教職員、留

学生のほか、海外の協定校である中国の安徽大学(クラス単位で参加)や北京外国語大学、韓国の釜山外国語大学校、明知大学校などからもご参加いただき、合計約70名の参加となった。講演会では、「ビジネスコミュニケーションとは」、「日本企業がビジネスで求めるコミュニケーション能力とはどのようなものか」、「コミュニケーション・スキルを自分のCareerにするためには」を中心に、(1)コミュニケーションについて、(2)「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」の関係性におけるコミュニケーションについて、(3)キャリア形成につながるコミュニケーションの経験、(4)企業が求める人材とは、の4つの視点からお話された。



参加した方々からは「今回のビジネス講演会は企業やコミュニケーションなどについて様々なことを学んだ。とくに、ビジネスコミュニケーションでは、単に仲良くするのではなく言いたいことを物怖じしないで発信できることが大事だということを学んだ」、「今回の講演会を通して、自分自身を振り返り、コミュニケーションにおいて改善すべき点を発見することができた。コミュニケーションの大切さ、何が私たちを助けてくれるのかを同時に知ることができた」、「今日の講演会では、ビジネスコミュニケーションの本質が理解できた。社会が求めるコミュニケーション能力の要素としては情報伝達、自己表現、人間関係構築が浮き彫りになった。これらのスキルを向上させ、自分のキャリアに結びつけるためには、相手を理解し、言葉選びや表現方法に工夫を凝らすことが不可欠だ。他者との協力や円滑な対話は、職場での成功に結びつく。日々の実践を通じて、これらのコミュニケーション・スキルを磨き、職場での効果的なコミュニケーターとして成長していきたいと感じた」、「今回の講演会では、日本企業のビジネ

コミュニケーションに焦点を当て実践的なアドバイスを提供してくれた。特に、コミュニケーション・スキルを自分のキャリアにするための具体例が参考になった。また、異なる立場や文化背景からのコミュニケーションの重要性についても理解が深まった。これらの知識は将来のキャリア形成において大いに役立つと感じた」等の感想が寄せられ、充実したひと時が共有できたことを主催者として大変嬉しく思う。

最後の質問タイムでは、積極的に質問する場面が見られ、本講演会の内容に関する関心の高さが窺えた。また、鈴木先生から「就職活動の際、困ったことがありましたら、アドバイスをしますので、聞いてください」という大変ありがたいお言葉をいただいた。



クラス単位で参加した安徽大会場の様子



◆講師
SUZUKI SHOKO
鈴木 實子 氏
成蹊大学経営学部 教授

◆プロフィール
大学卒業後、メーカーに入社し、人事部門で採用と人材育成にあたる。出版社に転職後、約200社の採用PRを実施を行う。その後、大学院で人事管理論を学び、人事コンサルタントとして独立。
次にお仲りのキャリア形成・就職支援、企業や行政機関での人材育成にあたる。大学関係30社、企業・行政機関約20社の実績。現在も、成蹊大学経営学部教授。著書多数。

キャリア形成に必要なビジネスコミュニケーション —日本企業を例に—

◆講演内容
ビジネスで必要とされることは、能力・スキル・価値観・キャリアなど自分とは異なる人を理解し認め、そしてお互いの強みをいかして協力し成果を出すことです。それがビジネスコミュニケーションで、自分のキャリア形成にもプラスになります。

日時 2023年11月15日 (木)
会場 オンライン (Teams)
時間 14:50 ~ 16:20 *14:40より入室可

◆お申込み先
ウェブフォームから11月10日(金) 正午までに申し込んでください。参加者には後日招待メールをお送りします。
学内 (学生と教職員用)
<https://forms.office.com/r/fhbtGkmi2>
学外 (一般用)
<https://forms.office.com/r/SNzdm4QeV>

◆お問い合わせ先
高知大学 グローバル教育支援センター (高知市曙町2-5-1)
E-mail: global-education@kochi-u.ac.jp
主催: 高知大学 グローバル教育支援センター

資料：講演会案内

3.2 海外派遣留学

(1) 海外留学説明会及び海外留学報告会（第1学期・第2学期）

グローバル教育支援センターは、留学に関する基本的な情報を学生に提供するため、海外留学説明会を毎学期実施している。2023年度は、4月26日(水)及び10月25日(水)に実施し、それぞれ50名、22名が参加した。説明会では、交換留学制度や短期プログラムなど在学习中に留学する方法、留学に向けた準備などについて話した。また、説明会の中で、交換留学や短期留学プログラムに参加した学生による留学報告が行われ、参加者たちは留學生活の具体的な情報を得ることができた。

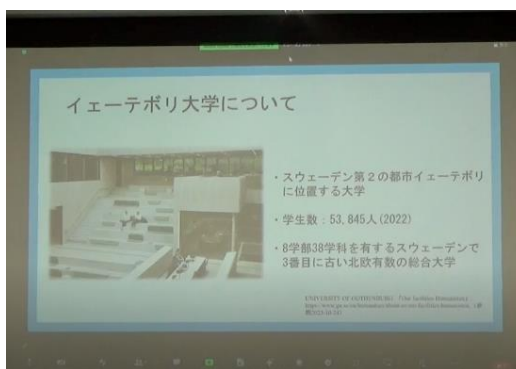
4月に実施した説明会では、タイ・タマサート大学に留学した地域協働学部4年生、台湾・東海大学に留学した土佐さきがけプログラム4年生、短期留学プログラムの共通教育科目グローバルコミュニケーションを履修し、アメリカ・サンディエゴに語学留学をした理工学部4年生がそれぞれ留学報告を行い、留学先の国、大学の様子や必要経費などについて話した。

10月の説明会では、韓国・明知大学校に留学した人文社会科学部4年生、スウェーデン・イエーテボリ大学に留学した人文社会科学部4年生2名(オンラインでの参加)がそれぞれ留学報告を行った。参加学生からは、報告者の卒業後の進路について質問が出るなど、留学中だけではなく留学後のキャリアについても知る事ができる機会となった。

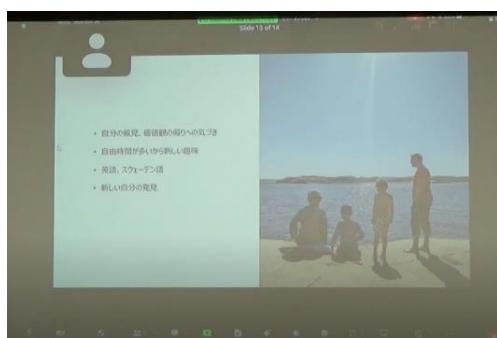
説明会会場の様子



海外留学報告



海外留学報告(オンライン)



海外留学報告(オンライン)



留学基本情報の説明

(2) 留学準備モジュール

グローバル教育支援センターでは、海外留学を控えた学生を対象に、留学準備モジュール(SAP: Study Abroad Preparatory Module)を実施している。本モジュールは、海外留学に際し必要となる様々なスキルや知識を伝え、より充実した留学生活が送れるよう支援することを目的として、2023年第2学期から開始し、第1回目は以下の日程で実施した。

	日時	テーマ	内容	参加人数
Session 1	11/29(水) 4, 5限	留学準備	・海外での危機管理(セミナー形式) ・個別面談(留学の目標設定など)	10名
Session 2	12/6(水) 4, 5限	異文化理解 WS	アクティビティなどを通じて異文化理解力をつけるためのワークショップ	11名
Session 3	12/13(水) 4, 5限	スキルアップ (英語)	・Presentation skill: 英語でのプレゼンテーションに慣れる ・Social interaction: 日常生活で使える表現	4名

※Session3のみ、留学先で英語を使用する学生を対象として実施し、中国、台湾、韓国など非英語圏へ留学する学生は任意参加とした。

2023年度第2学期の主な参加者は、2024年度春学期から交換留学に出発する学生、短期留学プログラム参加者で春期休暇に語学留学を予定している学生などであった。実施後アンケート(回答者10名)では、全員が内容について「とても満足している」「まあまあ満足している」と回答しており、参加学生はSAPを通じて留学前の準備を行うことができた。実施時期については、「適切だった」との回答が9割だったが、ビザ申請など留学前の手続きのため全てのセッションに出席できなかった学生がいた。また、オンラインでの受講も検討してほしいとの要望もあったため、次回以降の開催にあたり、アンケート結果を元に内容や実施時期について再度検討を行う予定である。2024年度からは毎学期の開催を予定している。

(3) 個別留学相談

グローバル教育支援センターでは、海外留学に関心のある学生を支援するため、教員による個別留学相談を行なっている。学生は、国際交流ホームページにあるフォームから申込みを行い、30分から1時間程度、担当教員と1対1で面談を行い、留学に関する相談を行う。相談内容は、正課での留学（交換留学、短期プログラムなど）や私費留学など様々である。また、相談時に交換留学応募の語学要件に達していない学生も多くいるため、語学試験対策についての相談も行なっている。

第1学期は、相談件数61件、相談人数46人、第2学期は相談件数33件、相談人数29人（2月20日時点）であった。第1学期に留学相談に来た学生のうち、9名が交換留学、5名が短期留学プログラムに参加しており、学生たちは留学に向けた具体的な準備のためのステップとして留学相談を活用している。

学部別相談人数

	1学期	2学期
人文社会科学部	30人	27人
農林海洋科学部	8人	2人
医学部	3人	—
地域協働学部	3人	—
理工学部	1人	—
教育学部	1人	—

学年別相談人数

	1学期	2学期
1年生	13人	14人
2年生	21人	12人
3年生	9人	3人
4年生	3人	—
大学院生	—	—

相談内容

	1学期	2学期
留学の基本情報について	18人	6人
正課での留学（交換留学など）について	21人	20人
私費留学について	7人	3人

希望する留学先地域（複数回対応の場合は第1回目相談内容に基づく）

ヨーロッパ	27人
北米	8人
オセアニア	4人
アジア	16人
アフリカ/中南米	1人/3人
英語圏（国や地域等の特定なし）	12人
未定	4人

(4) トビタテ！留学 JAPAN

グローバル教育支援センターでは、文部科学省の主催する留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」の新・日本代表プログラム（海外留学を希望する学生に返済不要の奨学金を支給）へ応募する本学学生へのサポートを行なっている。同プログラムの応募に際しては、留学計画の内容や書き方が重視されるため、説明会の開催やセンター教員による個別ブラッシュアップなどの支援を実施している。

2023 年度（第 15 期）募集では、応募書類のブラッシュアップ、書類選考を通過した学生への面接指導などを行った。その結果、人文社会科学部の学生 1 名が合格し、8 月から 1 年間アメリカに留学した。

また、2024 年度（第 16 期）募集に向けて、2023 年 10 月 25 日に学内向け説明会をハイブリッド開催した。説明会では、センター教員によるプログラムや応募方法についての説明に加え、本学卒業生でトビタテ 10 期生としてラオスに留学した荻野なつれさんから応募書類の書き方について詳しくお話いただいた。第 16 期募集では、10 回以上に及ぶ個別ブラッシュアップ（対面及びオンライン）を経て、最終的に 3 名の学生が応募した。



学内説明会の様子

(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞

ホライズンは、高知大学の学生と交換留学生によって書かれた新聞である。その目的は、より多くの学生に留学を広め、学生が英語で文章を書く練習をする機会を提供することだ。紙面では、留学経験や抱負、センターの活動、新しいパートナーシップなど、多様なトピックを取り上げている。記事は英語と日本語で書かれている。2023 年版には、JICA の JENESYS プログラムや GEASC 短期留学プログラム、GEASC サマープログラム、日本で生活や留学を経験した留学生の体験談、留学生や教師へのインタビューなどの記事が掲載された。



新聞の紙面

3.3 交流活動

(1) 大豊町における茶摘み体験（地域交流事業）

2023年5月13日（土）に大豊町の地域の方や町役場等のご協力の下、15名の留学生が参加し、地域の方との交流とともに、地域伝統文化の体験活動（茶摘み体験）を行い、地域とのかかわりを深めた。当日はあいにくの雨だったが、幸い午前中は天気がもち、無事茶摘みの作業ができた。茶摘み作業終了後、活動場所を立川刈谷多目的集会所に移し、集落活動センター「そばの里 立川」立川地区活性化推進委員会の吉川会長より、「日本におけるお茶の歴史」のテーマで、お茶の種類や作り方、お茶の産地等についてご紹介いただいた。その後、昼食を交えて交流を深めた。昼食は地元で採れたエゴマ等の食材をふんだんに使った地元住民手作りのお弁当を堪能し、その後、いよいよ摘み立ての茶葉を蒸す作業、専用の機械で蒸した茶葉を揉む作業、そして板の上に揉まれたお茶の葉を手で拵げて、乾燥しやすいように並べる作業をグループごとに体験した。茶摘み体験終了後、旧立川番所書院を見学し、書院の歴史について学ぶ機会を得た。

本活動に参加した留学生からは、「今回のお茶作りの体験で日本のお茶の特別さや感謝の気持ちに気付くことができた」、「自分でお茶の葉を摘んで、蒸気で蒸すことから揉む作業と乾燥までの過程を体験して、とても素敵な体験だったと思う」等の感想が寄せられた。後日、乾燥されたお茶が届けられ、参加した留学生がそれぞれ自分たちの手で作った新茶を楽しんだ。

当日、高知県立大学の日本人学生5名が地域おこしの活動の一環として協力員として参加し、参加した留学生が他大学の日本人学生と交流する機会にもなった。



茶摘み体験のお茶畑



「日本におけるお茶の歴史」について講義



お茶揉みの機械



旧立川番所書院前で集合写真

茶摘み体験
(大豊町立川地区地域文化体験)

日 時：2023年5月13日（土）
雨天の場合、5月20日（土）に順延

集合時間：AM 8:50
集合場所：朝倉キャンパス 正門前

準備物：お茶、酔い止め等各自が必要と思われるもの
服装：動きやすい服装(長ズボン)、運動靴

参加費：500円（お弁当代金）
(参加決定後、送金不可)

主催：書道活動センター「そばの里 立川」、
立川地区活性化推進委員会、
高知大学グローバル教育支援センター
お問い合わせ先：事務局@kocubi-u.ac.jp
電話：0985-3591-9111

【活動内容】

時間	内容
09:00	高知大学朝倉キャンパス出発
10:00	立川生活改善センター着 オリエンテーション
10:15	お茶摘み体験（終了後、別居集会所へ）
11:00	お茶作り体験（釜炒り作業）
12:00	昼食
13:00	お茶作り体験（お茶もみ作業）
13:30	交流会館旧立川番所書院見学
15:00	立川出発
16:00	高知大学朝倉キャンパス着

資料：茶摘み体験案内

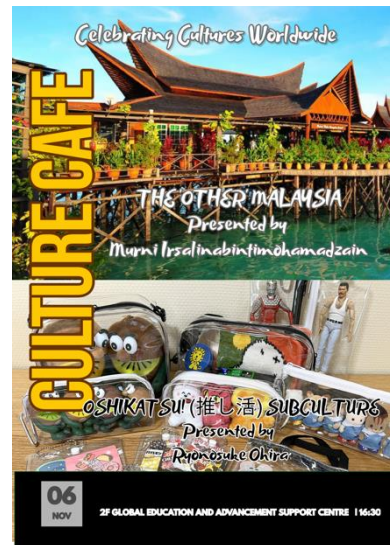
(2) Culture Cafe (第1回・第2回)



故エヴァ・ガルシア・デ・ラ・サズ先生が始めたイベント「カルチャーカフェ」が、2023年度中に2回開催された。第1回のイベントは、GEASC サマープログラム期間中の7月19日に行われ、俳句をテーマにしたものだった。ゲスト・プレゼンターは俳句愛好家グループのメンバーであった。メイン・プレゼンターが俳句の基本的な作法について説明した後、参加者は夏をテーマにした俳句に挑戦した。その後、俳句の審査が行われ、入賞者に賞品が授与された。このイベントには、共通教育の集中講義である「Japanese Studies」に参加している日本人学生や、イギリスやアメリカからの短期交換留学生も参加した。

資料：第1回 Culture Cafe 案内

11月には、第2回のカルチャーカフェが開催された。最初のプレゼンターはマレーシア出身の高知大学の学生で、彼女の国や文化についてあまり知られていない側面を紹介した。続く人文学部3年生の発表のテーマは、「推し活」として知られる文化現象についてだった。



資料：第2回 Culture Cafe 案内

(3) 留学生歓迎イベント

9月28日(木)に2023年9月に高知大学に到着した25名の交換留学生を歓迎するため、学生有志の主催で交流イベントを実施した。交換留学生に加え、本学と国際協力機構(JICA)が実施している国際研修で高知県を訪れていた太平洋島嶼国などの研修員10名もイベントに参加し、参加者数は、日本人学生、すでに高知大学で学んでいる留学生を含め合計72名だった。参加者はよさこい体験、書道、茶道、折り紙、けん玉などの日本文化体験など多様なアクティビティを通じて交流を深めた。

交流イベントの様子



集合写真



高知大学よさこいチーム「粋恋」のよさこい踊り体験



折り紙体験



けん玉体験



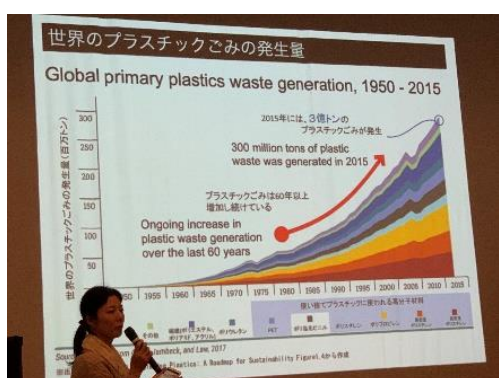
茶道体験



書道体験

(4) 留学生見学旅行

2023年11月18日(土)に高知大学に在籍している外国人留学生を対象に見学旅行を高知県大方高校生徒との交流も兼ねて実施した。留学生35名、日本人学生5名、引率教職員3名が参加した。当日午前中は黒潮町にある大方あかつき館内にて活動した。まずエンカウンター活動として高知大学生と高校生の混合チームによる日本の伝統的な遊び「あっち向いてホイ」ゲームを体験し、ゲームで負けたチームは引いたくじの質問に答えた。その後、高校生が黒潮町や南海トラフ地震について紹介した。南海トラフ地震が起こった場合のCG映像も活用され、学習を通して防災意識も高められたと思われる。その後、あかつき館と一体になっている避難タワーを高校生の案内のもと、グループごとに見学した。昼食は地元で有名な軽食&喫茶「からっと」のお弁当をいただいた後、午後の活動に入った。



午後はまずNPO法人「うみのこども」の中谷様から、「海洋のゴミ問題」についてのお話をうかがった。その後、入野の浜に移動した。入野の浜では、チームごとにビーチコーミング(ビーチクリーン)を行いながら作品作りに精を出した。そして、各々の作品を特設サイトに投稿し、投票の結果、2名の留学生の作品が優秀賞に選ばれ、特製お菓子の王冠が授与されたところで、1日の活動が終

了となった。今回の見学旅行を通して、留学生は地域文化に対する理解が深められたと同時に、留学生間の親睦・交流、加えて日本人学生との交流及び地元高校生との交流も図ることができた。

参加した留学生等からは、下記のような感想が寄せられ、大変有意義な見学旅行となった。



① <大方高校生徒との交流活動>



「高校生達と一緒にゲームをしながら、質問に答えた。みんなの答えを通して、高校生達とグループメンバーについてより詳しく理解できた」、「高校生のみんなが親切で、一緒に遊んだり話し合ったりしうれしかった」、「日本の身近な遊びについて楽しく体感することが出来た」、「最初はゲームを通じて高校生たちと親しくなったが、以前日本語会話の授業でこのゲームのルールを学んで、その日高校生たちと一緒に遊んだときはとても楽しかった」、「高校生との交流活動はとて

も楽しい経験だった。最初はみんな人見知りしていたが、だんだんお互いの人見知りも少なくなったと思う。じゃん拳をするのは楽しかったし、高校生たちから新しいことを学べた

り、負けたチームが答える必要のある質問を通じて他の生徒たちについてもっと知ることができたのは新鮮だった」。

② <黒潮町・防災学習活動>



「黒潮町の人口が減っている。動画を見て津波がほんとうに恐ろしいと思う。どうすればもっと防災できるかをもっと詳しく知りたい」、「防災学習は大変実用的で、現地の状況についてわかりやすく説明された」、「防災学習では、津波のシミュレーション動画が印象的だった。初めて見るものだったが、津波の恐ろしさをイメージしやすく、より身近に感じさせてくれた」、「黒潮町の人々が津波災害に備えて地域住民に情報を提供したり、訓練を行ったりに非常に真剣であることを学んだ」、「防災学習を通じて、減災の大切さに気づいた。また、学校ではゲームやその他の楽しいことを通して災害学習を教えるべきであることを学ぶことができる」、「私にとって日本の防災について学ぶのは2度目の経験だった。この経験は有益であり、理解するのに役立った」。

③ <津波避難タワー見学>



「津波避難タワーは綺麗だった。災害に備えるだけでなく、見張り塔としても使えるよう工夫されている」、「高知県へ来て、初めて津波避難タワーという存在を知った。町全体を眺められるくらいの高さで、避難タワーの設計から津波の危険さがひしひしと伝わってきた」、「とても興味深い！ 私の国、インドネシアも災害が多いので、この制度を採用できるはずだ」、「避難タワーの構造と、災害時の避難タワーのオペレーションを高校生が説明してくれて、その重要性が理解できた」、「津波避難タワーツアーは、目を見張るような学びがあった。沿岸地域における防災対策とその重要性を目の当たりにすることができた。このツアーでは、潜在的な自然災害に対する地域社会の認識と備えの重要性が強調された」。

④ <ビーチコーミング&リフレクションビーチ>

「ビーチを歩きながらゴミを回収するのは景色を見るだけじゃなくて、環境保護に役立つこともできた。非常に有意義だと思う」、「チームごとの活動で、高校生や留学生と仲を深めることができた。みんなゴミ拾いに熱心に取り組んでいて、心が気持ちよかった。思ったほどゴミも落ちていなかったの、普段からの環境保全活動の様子が見て取れた」、「思っていたよりビーチにゴミがなかったが、大きな網やペットボトルの破片など本来あるべきではないものも確かにあった。量としては少量であったが、これが積み重なることで環境

へ大きな影響を与えるため、少量であっても清掃活動を行うことは重要だと思った。また、このような活動を通して、環境に対する意識を高められるという点においても意味があると思った」、「ゴミ拾いはあまり楽しいものではなかったが、グループでやったので楽しくできた。なので、このようなイベントを開催することで、海岸のゴミを減らすことができるのではないかと思った」、「他の生徒との絆を深める時間となり、海岸環境についての意識が高まった」。

また、高校側も、事後の振り返りでは、「私の中では繋がった」、「意外に出来てうれしい」など交流したからこそその手ごたえを実感しているとのメッセージをいただいた。

最後に今回の見学旅行の諸活動のアレンジをしていただいた高知県立大方高等学校の金子先生をはじめ、当日の活動にご協力くださった先生方にこの場をお借りして感謝の意を申し上げたい。そして、交流活動に参加してくださった大方高校生徒のみなさんにも感謝の気持ちをお伝えしたいと思う。本当にありがとうございました。



入野の浜にて集合写真

2023年度留学生見学旅行&大方高校との交流活動
International Student Study Tour & Exchange Activities with Ogata High School 2023

日時：2023年11月18日(土)(終日) Date: Saturday, November 18, 2023 (All day)

実施内容： Contents:
①高校生との交流活動 ①Exchange activities with high school students.
②防災フィールドワーク ②Disaster prevention fieldwork.
③ビーチコミング&リフレクションビーチ ③Beach combing & Reflection beach.

対象者：高知大学留学生（2023年1月以降高知大学に入学した留学生を優先、その他は先着順）
Eligible participants: Kochi University international students (Priority given to those who entered Kochi University after January 2023, others are on a first-come, first-served basis.)

申込先：ウェブフォームから申し込んでください。
Application: Please apply from URL or QR code. <https://forms.office.com/r/Ns9LrdDpe4>

申込締切：2023年10月20日(金) Application deadline: No later than Friday, October 20, 2023

参加費：無料(※研修参加後レポート提出が必要)。また、昼食費は自己負担(金額未定、1,000円以内)
Fee: Free of charge *Participants are required to write a visit review after the tour.
In addition, lunch expenses are paid by yourself (amount of money undecided, within 1,000 yen)

集合時間&場所については後日に参加申請者に連絡
Participants will be contacted at a later date regarding the meeting time & place and notes on participation.

問合せ先：グローバル教育支援センター
Contact: Global Education and Advancement Support Center Email: global-education@kochi-u.ac.jp

申し込み欄に、かららずに
役目の了解を付けてください。
Your supervisor's consent is
necessary before you apply.

資料：見学旅行案内

(5) 大豊学園との交流

<第1回>

2023年11月30日(木)に大豊町立大豊学園8年生(中学2年生)13人が実践的な英語教育の一環として高知大学に訪れ、本学の留学生5名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、スウェーデンからオリバーさん、グスタヴさん、中国から秘金旭さん、王怡楠さん、マレーシアからイザットさんが交流会に参加した。



まず、大豊学園生徒による英語での大豊町の観光地、特産品、大豊学園の概要や学校行事、クラブ活動、英語学習に関する紹介があり、留学生は日本の中学校の生活について興味深く耳を傾けていた。また、どのようなクラブ活動があり、何部に所属しているのかという質問があり、生徒一人一人がそれぞれの部活動について簡単に紹介をしてくれた。

その後、オリバーさんとグスタヴさんによる「スウェーデンはどこにあるのか」から始まるスウェーデンの概要とスウェーデンでのクリスマスの過ごし方や料理についての紹介があった。スウェーデンの特徴的な食べ物として「世界一臭い食べ物」と評されることもある「シュールストレミング」やしよっぱい味の「リコリス」というお菓子も紹介され、皆興味津々だった。



続いて、王怡楠さんと秘金旭さんによる中国の概要と中華料理ならびに観光地についての紹介があった。中国は世界一の人口を有し、世界で二番目に大きい国であるため、地域により特徴的な気候や習慣、文化が発展しており、料理の味付けも「南は甘く、北はしょっぱく、西は酸っぱく、東は辛い」と言われているという説明とともに5つの地域の料理と観光地が写真で示された。日本でも馴染みの「北

京ダック」や「麻婆豆腐」などの料理や「万里の長城」や「兵馬俑」などの観光地も紹介され、皆興味深く聞いていた。



最後に、イザットさんからマレーシアの多様性についての紹介があった。冒頭マレーシアの旗やマレーシアの位置についてクイズが出されたが、正解率はそれほど高くなかった。そして、マレーシアはマレー系と中華系、インド系の人々により社会が構成されており、言語や宗教、食べ物などの文化が異なるが、英語が共通語なのでマレーシア人は英語が話せるとの説明があり、皆感心していた。

それぞれの発表が終わった後、5名の留学生を囲んで小グループに分かれて10分間ずつ自己紹介や発表に対する質疑応答、「将来の夢」についてグループメンバーで英語で語り合った。10分経った後、次のグループに移動し質疑応答と話し合いをしい、5回のグループ活動が行われた。グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語でコミュニケーションが取れる様子が見えかけた。そして、交流会が終わりを迎える頃には皆すっかり仲良くなっており、大豊学園の生徒からは「コミュニケーションが取れて楽しかった」、「もっと英語で交流したい」という声が聞かれ笑顔が溢れていた。



留学生からも「皆積極的に純粋に交流を楽しんでいて短い時間だったが、とても楽しかった」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。

<第2回>

2024年2月21日(水)に大豊町立大豊学園8年生(中学2年生)13人が実践的な英語教育の一環として高知大学を訪れ、本学の留学生6名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、スウェーデンからオリバーさん、グスタヴさん、中国から董偉騫さん、紀清禹さん、マレーシアからフダさん、インドネシアからヘルミナさんが交流会に参加した。



まず、留学生から自分の国の世界遺産とおもしろいものについての発表が各国10分ぐらいずつあった。スウェーデンからはオリバーさんより王室の居城であり、美しい庭園と宮殿がある「ドロットニングホルムの王領地」やヴァイキング時代の遺跡で歴史的な価値が高い「ビルカとホーヴゴーデン」、18世紀の製鉄所で産業遺産として重要な「エンゲルスバーリ製鉄所」、先史時代の岩絵が保存されている「ターヌムの岩絵群」などの世界遺産の紹介があった。グスタヴさんからはスウェーデンのおもしろいものとして、2キロ以上の塊のチーズを切る「チーズスライサー」やペットボトルや缶のリサイクルシステムである「PANT」、15歳になると法的に免許なしで運転できる特別な「A-TRAKTOR」などの説明があり、皆文化の違いに驚いていた。



次に、董偉騫さんと紀清禹さんによる中国の世界遺産と中華料理の地域の味についての紹介があった。中国の世界遺産はイタリアに次ぐ世界2位の登録件数で、現在57件がユネスコに登録されており、日本でも有名な「万里の長城」や「兵馬俑」、「北京故宮」の紹介があった。また、中華料理の5つの重要な味として中国は地域により特徴的な気候や習慣、文化が発達しており、料理の味付けも「南は甘く、北はしょっぱく、西は酸っぱく、東は辛い」という説明とともに漢方では「苦味」が不可欠で医食同源の考え方も紹介され、皆興味深く聞いていた。



続いて、フダさんからマレーシアの世界遺産としてマレーシアの西海岸にあるマラッカ海峡に面した2つの歴史的港町の「マラッカ海峡の歴史的都市群」が紹介され、東西の文化が交流した痕跡が説明された。また、マレーシアのおもしろいものとしては、ビー玉を使って遊ぶ伝統的な「チョンカック」というゲーム

やデラックスなお弁当箱「ティフィンボール」が紹介され、皆興味津々だった。



最後に、ヘルミナさんからインドネシアは17,000の島々で構成されており、自然遺産になっている国立公園や山、湖などの自然が豊かなことが紹介された。文化的豊かさとしては、多様な民族文化があり、伝統芸術であるバリ島の「ケチャダンス」や西ジャワ州の伝統楽器の「アングルン」、ろうけつ染め布地の「バティック」などについて説明があり、皆興味を持っていた。



それぞれの発表が終わった後、6名の留学生を囲んで小グループに分かれて7分間ずつ自己紹介や発表に対する質疑応答、「自分が興味のある世界遺産」、「日本のおもしろいもの」についてグループメンバーで英語で語り合った。7分経過後、次のグループに移動し質疑応答と話し合いをしい、6回のグループ活動が行われた。大豊学園の生徒からは「マチュピチュ」や「ガラパゴス諸島」の世界遺産や「折り紙」

や「新幹線」、「和菓子」などの紹介があり、グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語でコミュニケーションが取れる様子うかがえた。留学生からも日本のおもしろいものとして「だるま」や「よさこい祭り」を挙げる学生がおり、交流会が終わりを迎える頃には皆すっかり打ち解けていた。大豊学園の生徒からは「自分が準備してきたものを紹介でき、コミュニケーションが取れて楽しかった」、「もっと英語で交流したい」、「次の交流を楽しみにしている」という声が聞かれ笑顔が溢れていた。



留学生からも「他の国の話も聞けて楽しかった。グループワークでは私の質問に丁寧に答えてくれた生徒もいて感心した」、「今回久しぶりに英語で交流できて嬉しかった。生徒さんが日本や他の国のことを紹介してくれ勉強になった。紹介されたことで興味がある部分は生徒さんたちと楽しく議論できた」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。

(6) スウェーデン聖ルシア祭

2023年12月12日(火)にグローバル教育支援センター主催によるスウェーデンの聖ルシア祭を紹介し日本人学生と留学生が交流するイベントが開催され、日本人学生7名、留学生10名が参加した。スウェーデンでは毎年12月13日にクリスマス行事の一環として「聖ルシア」を祝うお祭りが開催され、人々に親しまれているようだ。もともとスウェーデンでは、ユリウス暦が使用されていた18世紀には12月13日が冬至の日にあたり、その日をお祝いしていた。その後、グレゴリオ暦に変わり、その伝統とともに聖ルシアが貧しい人々にルシヤパンを配ったことにちなんで「聖ルシア祭」として祝われることになったそうだ。

そこで、スウェーデンからの留学生のオリバーさんとグスタヴさんと一緒に午前中は「聖ルシア祭」で重要な意味を持つ伝統的な「ルシヤパン」を朝倉ふれあいセンターの実習室で作った。「ルシヤパン」の本来の形はハの字型だが、学生たちは個性を活かし花型やハート型、猫や犬などそれぞれ思い思いの形でパン作りにチャレンジした。サフランを入れて作ったルシヤパンはふっくらと焼きあがり、香ばしくなかなかの出来栄えだった。交流会では、オリバーさんによるスウェーデンの概要や料理、聖ルシア祭についての紹介があり、その後、皆自分が作った力作のルシヤパンを試食しながら交流を深めあった。

参加した学生からは、「パン作りは思ったより簡単で自分の好きな形に作れるのが楽しかった」、「今まで味わったことのないパンの味で本当に美味しかった」、「実際にスウェーデンのルシア祭を現地で体験してみたい」との感想が寄せられた。スウェーデンの留学生からは、「皆さんと楽しみながらおいしいパンが作れて嬉しかった。これを機に、スウェーデンについてもさらに興味を持ってもらいたい」との感想があった。今回のイベントでは食文化も含めて国際交流、異文化理解を図ることができた。



ルシヤパン作り



できあがったルシヤパン



個性的なルシヤパン



聖ルシア祭の紹介

3.4 留学生ガイダンス

(1) 留学生履修説明会

日時：(第1学期)2023年3月31日(金)

(第2学期)2023年9月14日(木)

概要：グローバル教育支援センターで開講している日本語授業を受講するためのプレースメントテストを受ける前に、交換留学生対象の履修説明会が行われた。留学生を対象としている日本語関係の授業であるグローバル教育支援センター開講の日本語総合コースや共通教育日本語・日本事情科目、教育学部・人文社会科学部の専門科目を中心に詳細な説明がなされた。また、授業科目の受講登録の方法や受講時の留意点、シラバスの検索方法等を紹介し、履修登録に関する質問を受け個別相談にも応じた。留学生は渡日したばかりで緊張した面持ちで真剣に説明を聞いていたが、積極的に質問をする学生も見られ留学生活に対する期待感が感じられた。



会場の様子

(2) 留学生オリエンテーション(第1学期・第2学期)

日時:(第1学期)2023年4月3日(月)

(第2学期)2023年9月15日(金)、9月19日(火)

概要:新入留学生オリエンテーションを第1学期は4月3日、第2学期は9月15日と9月19日に開催した。各回の内容は下表のとおりである。また、オリエンテーションに合わせてウェルカムパーティを開催し、新入留学生と在来留学生、日本人学生が情報交換するなど懇親を深めた。

<u>第1学期</u>
<ul style="list-style-type: none">○グローバル教育支援センター教員紹介○保険管理センターからのお知らせ○留学生活についての諸注意○学び創造センターからのお知らせ○情報セキュリティ講習○高知大学生生活協同組合からの案内
<u>第2学期</u>
第1回目(9月15日) <ul style="list-style-type: none">○グローバル教育支援センター教員紹介○学び創造センターからのお知らせ○学生グループ「国際茶屋」の紹介○防犯・交通マナー教室:高知南警察署○情報セキュリティ講習
第2回目(9月19日) <ul style="list-style-type: none">○留学生活についての諸注意○高知大学生生活協同組合からの案内○自立学習支援センターの紹介

(3) 帰国準備説明会(第1学期・第2学期)

日時:(第1学期)2023年7月5日(水)

(第2学期)2024年1月10日(水)

概要:

留学期間を終えて帰国する交換留学生を対象とした帰国準備説明会を開催した。

国際教育支援室担当職員から、学内手続き関係(帰国後の連絡先、貸出物の返却など)、市役所での手続き(住民票転出届及び国民健康保険証の有効期限変更)、銀行等での手続き(銀行(郵便局)口座の解約)、住居の手続き(宿舍等退去手続き、部屋の点検、家賃支払い、電気・ガス・水道代・インターネットの解約と支払い、部屋の片づけ、ゴミの分別・処分)、携帯電話の解約、在留カードの返還など、帰国前に留意しておいてほしいことについて、丁寧に説明を行った。また、今後の留学生支援に活かすため、修学や生活上の良かったことや困ったことなどについてアンケートを実施した。

最後に国際教育支援室から、留学終了後も帰国留学生ネットワークの活動やホームページ、Facebookなどを通して、高知大学とのつながりを継続してほしいと伝えた。

3.5 受入れに関するリクルート活動

(1) 2023年外国人学生のための進学説明会 (in 東京)

日時：2023年6月24日（土）

概要：サンシャインシティ文化会館 展示ホール D にて大学等への進学を目指している外国人学生を対象に、137 機関が参加した日本学生支援機構主催の進学説明会が行われた。当日の全体の参加者数は1,184名で、本学ブースを訪れたのは日本語学校教員数名も含めて45名であった。例年に比べ大学院への進学希望者の相談件数が増加傾向にあった。

進学指導者	2名
留学生	43名
国・地域	中国：24名、モンゴル：4名、マレーシア：4名、 インド：3名、ベトナム：2名、インドシア：1名、 シンガポール：1名、バングラデュ：1名、 メキシコ：1名、フランス：1名、香港：1名
希望学部 (複数回答)	人文社会科学部 学部：11名（編入希望含む）、大学院：5名 理工学部 学部：17名、大学院：8名 医学部 学部：1名、大学院：1名 農林海洋科学部 学部：3名



高知大学のブースの様子（東京会場）

(2) ジーベック外国人留学生のための進学相談会 (in 高松)

日時：2023年7月4日(火)

概要：

高松センタービルにて、国立大学2校(本学の他、香川大学)、私立大学6校(岡山商科大学・高松大学・高松短期大学・大阪産業大学・神戸医療未来大学・阪南大学)、専門学校8校が集まり、外国人留学生のための進学相談会が行われた。

各大学のブースにて留学に関する個別相談が行われ、高知大学のブースには9名の学生が訪れ、真剣に質問をし説明に聞き入っていた。全て学部志望者で、理工学部(特に情報科学科)への進学希望者が多かった。相談者の中には是非オープンキャンパスに訪れたいという学生もおり、本学への受験を真剣に考えている質の高い学生がいる傾向があった。また、地元の日本語学校2校の教員も本学のブースに訪れてくれた。

(3) ジーベック外国人留学生のための進学相談会 (in 岡山)

日時：2023年7月5日(水)

概要：

岡山駅前にある第一セントラルビル1号館にて、本学の他、岡山商科大学・就実大学・就実短期大学・大阪産業大学・阪南大学・神戸医療未来大学・日本福祉大学及び専門学校10校が集まり、外国人留学生のための進学相談会が行われた。

各大学のブースにて留学に関する個別相談が行われ、高知大学のブースには6名の学生が訪れ、真剣に質問をし、メモを取りながら聞き入っていた。6名とも学部志望者で、人文社会科学部2名、理工学部4名であった。相談者から複数の学科が受けられるかという質問があった。

(4) 学校法人エール学園進学相談会 (オンライン参加 ZOOM)

日時：2023年7月5日(水)

概要：

エール学園応用日本語学科、日本語教育学科に在籍の留学生を対象に「高知大学2023大学案内」と「2024年度学生募集要項」を事前に人数分送付しておき、当日教室で配布してもらい、高知大学の教育組織、教育内容、入学試験、その他大学の特色等について説明するとともに、留学希望者からの質問に対応した。

質問としては、申し込み時の書類や入試の内容についての質問があった。興味のある学生は8月5日(土)・6日(日)に開催されるオープンキャンパスに参加してほしい旨を周知した。当日本学のオンライン会場に訪れた留学生は53名であった。

(5) 2023年外国人学生のための進学説明会 (in 大阪)

日時：2023年7月8日（土）

概要：梅田スカイビルアウラホールにて大学等への進学を目指している外国人学生を対象に、98機関が参加した日本学生支援機構主催の進学説明会が行われた。当日の全体の参加者数は901名で、本学ブースを訪れたのは日本語学校教員数名も含めて33名であった。

進学指導者	3名
留学生	30名
国・地域	中国：21名、ベトナム：2名、バングラデュ：2名、スリランカ：1名、台湾：1名、不明：3名
希望学部 (複数回答)	人文社会科学部 学部：8名、大学院：5名 理工学部 学部：9名、大学院：1名 医学部 学部：2名 農林海洋科学部 学部：2名
資料のみ請求	3名

(6) ECC 国際外語専門学校進学説明会 (in 大阪)

日時：2023年7月29日（土）

概要：

ECC 国際外語専門学校主催の「留学生対象 構内進学説明会」に参加し、高知大学への進学希望者に対して本学の入試等に関する情報提供とともに、個別相談を行った。また、高知大学のブース訪問者に大学案内と学生募集要項を配布した。

高知大学のブースには3名の学生が訪れ、真剣に質問をし、説明に聞き入っていた。相談者3名のうち、医学部への進学希望者2名（複数希望専攻含む）、人文社会科学部のへの進学希望者は1名、農林海洋科学部希望者1名（複数希望専攻含む）であった。相談者から、高知大学の奨学金や学費、受験料に関する質問があった。また、オープンキャンパスの開催日に関する質問もあり、本学への受験を真剣に考えている質の高い学生がいる傾向があった。

4. 授業関連

4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース

2023 年度日本語総合コース授業科目 第Ⅰ学期シラバス

<朝倉キャンパス>

Ⅰ. 授業の概要

高知大学に在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4 月第 3 週から始まり、科目名は日本語未修者で入門レベル対象の「基礎日本語Ⅰ」、日本語既習者で初級レベル対象の「基礎日本語Ⅱ」、中級レベル対象の「初中級文型」、「初中級会話Ⅰ」、「中級漢字・語彙Ⅰ」、「中級聴解Ⅰ」、「中級会話Ⅰ」、「中級作文Ⅰ」、「高知文化事情」、中上級レベル対象の「コミュニケーション日本語Ⅰ」である。

Ⅱ. 授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

初級レベルは、引き続き初級前半の 4 技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、中級前半から中級後半レベルへの 4 技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力向上を図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

Ⅲ. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅰ	林翠芳(木)・大塚薫(火)	火曜日 2 限・木曜日 3 限
授業内容：	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 1 課～第 19 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『かな入門』	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅱ	林翠芳・大塚薫	火曜日 3限
授業内容： 初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要な最低限の会話力の養成を目指す。		
使用教材： 『みんなの日本語初級Ⅰ本冊 第8課～第22課』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク		
評価方法： 期末試験、課題・受講態度、出席		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級文型	吉田 鈴香	月曜日 3限
授業目標： 初級レベルの文型が適切に使えるようになる。新しい文型を身につけ、中級レベルの日本語学習に進む準備をする。初級文法を復習し、新しい文法を学習していく。短文作成に重点を置く。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 出席・受講態度、課題、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級会話Ⅰ	大塚 薫	木曜日 2限
授業目標： 身近な話題を通してきちんと伝える技術と表現を身につける。また、それぞれのテーマで話題となっている内容について自国の文化と比較し、ペアやグループで話し合い発表の能力を高めることを目標とする。		
テキスト： 『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化』アルク		
評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級漢字・語彙Ⅰ	吉田 鈴香	月曜日 2限
授業目標： 日常生活でよく見る表示や文書などを使って、漢字（約300字）と漢字で書く言葉を学習する。		
テキスト： 『留学生のための漢字の教科書 中級700 [改訂版]』国書刊行会		
評価方法： 出席・受講態度、課題、小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級聴解Ⅰ	尾中 美代子	火曜日 1限
授業目標： 日本語音声の特徴と聴解のストラテジーを学び、日常耳にする様々な音声を正しく理解できることを目標とする。		
テキスト： 『毎日の聞きとり plus40』上巻・下巻 凡人社 『上級の力をつける聴解ストラテジー』上巻 凡人社		
評価方法： 期末試験、課題・受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級会話 I	池 純子	水曜日 2 限
授業目標： 中級レベルの文型を使って、学校、娯楽、アルバイトなど日常生活の身近な話題について聞いて理解し、自分の表現したいことを適切に伝えることができるようになる。また、関心のある社会的な話題について討論し、自分の意見を論理的に言うことができるようになる。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 期末試験、出席・受講態度、課題・発表		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級作文	池 純子	金曜日 2 限
授業目標： ①初級で勉強した文法や表現を使って、正しい文を作ることができる。 ②文と文のつながりを考えて、まとまった内容の文章をわかりやすく書けるようになる。 ③レポートや発表スライド、メールなど目的の応じた文章を書けるようになる。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 出席・受講態度、課題、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
高知文化事情	尾中 美代子	金曜日 3 限
授業内容： 高知県の風土、文化などを学ぶことによって、より早く高知の文化や社会事情を理解することを目標とする。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： トピックごとの課題、受講態度、最終レポート		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
コミュニケーション日本語 I	大塚 薫	木曜日 3 限
授業目標： 大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目標とする。また、就職活動に必要な日本語力を身につけるために、自己分析・企業研究・面接に必要な日本的マナーや話し言葉の日本語を習得する。		
テキスト： 『就職のための日本語』多楽園 『伸ばす！ 就活能力・ビジネス日本語力』国書刊行会		
評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度		

<物部キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4月第3週から始まり、日本語入門を習得している学習者を対象とする「初級Ⅱ」、日本語既習者で日本語初級前半を習得した学生を対象とした「初級Ⅲ」を設ける。「初級Ⅱ」と「初級Ⅲ」は週2コマとする。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅱ」は日本語入門を習得している学生を、「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とする。そして、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は「初級Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「初級Ⅲ」は日本語能力試験 N4 レベルとする。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅱ	石川啓子	火・木曜日2限
授業内容：	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊 第13課～第22課』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅲ	石川啓子(木)・土橋愛(火)	火曜日1限・木曜日3限
授業内容：	初級後半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅱ本冊 第26課～第36課』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級Ⅱ」、「日本語初級Ⅲ」を週1コマずつ設け、2023年4月第3週から8月まで15週間開講する。

II. 授業レベルについて

「日本語初級Ⅱ」は、日本語入門を習得している学生を対象とし、「日本語初級Ⅲ」は、日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とする。到達目標は「日本語初級Ⅱ」は日本語能力試験N5レベル、「日本語初級Ⅲ」は日本語能力試験N4レベルとする。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級Ⅱ	今井 多衣子	木曜日 4限
授業内容：	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級前半の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第13課～第21課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級Ⅲ	今井 多衣子	木曜日 5限
授業内容：	初級前半の学習を習得している学習者に対し、継続して初級後半の日本語学習を行う。初級後半の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ』第23課～第25課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ』第26課～第35課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

2023 年度日本語総合コース授業科目 第 2 学期シラバス

<朝倉キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10 月第 2 週から始まり、科目名は入門レベルの「基礎日本語」、初中級レベルの「初中級文法」、「初中級会話Ⅱ」、中級レベルの「中級読解」、「中級漢字・語彙Ⅱ」、「中級会話Ⅱ」、「中級作文Ⅱ」、「中級聴解Ⅱ」、中上級レベルの「コミュニケーション日本語Ⅱ」、上級レベルの「ビジネス日本語」を設ける。

II. 授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの 4 技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

上級レベルは、日本語能力試験 N1 レベルの学生を対象とし、超上級レベルへの 4 技能の実力向上を図り、到達目標はビジネス日本語習得レベルとする。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
基礎日本語	林翠芳(火)・大塚薫(金)	火曜日 2 限・金曜日 3 限
授業内容：	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 1 課～第 13 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『かな入門』	
評価方法：	中間・期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級文法	池 純子	水曜日 2 限
授業内容： 初中級レベルの文型や類似表現の違いを学習し、より詳しく、適切な表現を使って会話をしたり作文を書いたりできるようになる。短い文章を読んで、その中に出てくる初中級～中級前半レベルの文法・文型や表現の使い方を学ぶ。		
使用教材： ハンドアウト		
評価方法： 出席・課題を含む受講態度、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級会話Ⅱ	池 純子	金曜日 2 限
授業内容： 初中級～中級レベルの文型を使って、自分の表現したいことを自分の知っていることばや表現を使って、わかりやすく適切に相手に伝えることができるようになる。また、場面によってカジュアルな表現とフォーマルな表現を使い分けることができるようになる。日常生活で出会う場面についてロールプレイしたり、興味関心のある話題について発表したり、グループで話し合ったりする。		
使用教材： ハンドアウト		
評価方法： 出席・課題を含む受講態度、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級読解	吉田 鈴香	月曜日 2 限
授業内容： 正確に内容を把握し、自分が理解したことを他の人に伝えられるようになることを目指す。日本人や日本社会について書かれた文章を読む。自ら考えて答えることによって、正確に内容を把握できる力をつける。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 出席・受講態度、課題、小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級漢字・語彙Ⅱ	吉田 鈴香	月曜日 3 限
授業内容： 日常生活でよく見る表示や文書などを使って、漢字（約 300 字）と漢字で書く言葉を学習する。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 出席・受講態度、課題、小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級会話Ⅱ	尾中 美代子	水曜日 1限
授業内容： 会話の機能ごとにさまざまな表現を学び、場面や状況に応じて適切なコミュニケーションができるようになる。		
テキスト： 『ロールプレイ玉手箱』ひつじ書房		
評価方法： 受講態度、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級作文Ⅱ	尾中 美代子	水曜日 3限
授業内容： 文章作成に必要な基本事項を学び、さまざまな表現を使って目的に応じた文章が書けるようになる。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 受講態度・課題、期末試験		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級聴解Ⅱ	林 翠芳	木曜日 3限
授業内容： 会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力を付けることを目標とする。		
使用教材： 『聞いて覚える話し方 日本語生中継』中～上級編 くろしお出版		
評価方法： 期末試験 or 発表、出席、課題・受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
コミュニケーション日本語Ⅱ	林 翠芳	木曜日 2限
授業内容： 大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目標とする。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
ビジネス日本語	林 翠芳・大塚 薫	火曜日 3限
授業内容： ビジネス場面に使われるビジネス日本語の聴解と聴読解を中心に、ビジネス日本語のコミュニケーション・スキルの向上を図り、ビジネス知識、習慣など、社会的・文化的背景を含めた、総合的な理解力や判断力を養うことを目標とする。また、ビジネス文書の論理的展開に注目し、実務に役立つ文章作成技能についての知識と技能の基本を習得する。ビジネス日本語能力テストにも対応した内容構成で学習する。		
テキスト： ハンドアウト		
評価方法： 出席、受講態度・課題提出、中間・期末評価		

<物部キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10月第2週から始まり、日本語未習者を対象とする「初級Ⅰ」、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅲ」、日本語初級後半を習得した学習者を対象とする「初中級Ⅰ」、2023年に来日した学生を対象とする「日本事情」を設ける。「初級Ⅰ」は週2コマ、「初級Ⅲ」「初中級Ⅰ」「日本事情」は週1コマである。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「初中級Ⅰ」は日本語初級後半を習得した学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

「日本事情」は、日本の生活に慣れていない学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上での様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指す。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅰ	石川啓子	火・木曜日2限
授業内容：	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第1課～第12課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『かな入門』	
評価方法：	中間・期末試験、課題・受講態度、小テスト	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅲ	石川 啓子	木曜日 3限
授業内容： 初級前半を学習している学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級中期から後期にかけての基本的な文法、文型、語彙を習得し、日常的な場面での会話ができるようになる。		
使用教材： 『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第21課～第25課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク		
評価方法： 期末試験、課題・受講態度、小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級Ⅰ	土橋 愛	火曜日 3限
授業内容： 初中級前半の文型、語彙を学習し、読む力、書く力をつけ、中級にスムーズに移行できるようになる。		
使用教材： 『中級へ行こう（第2版）』スリーエーネットワーク		
評価方法： 期末試験、課題・受講態度、出席		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
日本事情	今井 多衣子	月曜日 3限
授業内容： 高知県及び高知市、南国市での生活環境に慣れ、印象深い日本文化体験をする。		
① オリエンテーション、自己紹介、日本・高知県の紹介		
② 路面電車に乗り高知市内の見どころ巡り		
③ 南国市の生活ガイドの説明及び災害に関する情報学習		
④ 檜原町・天狗高原へのバス旅行		
⑤ 日本についての学習		
⑥ 日本の正月体験		
⑦ 日本事情の感想と各国事情との比較		
使用教材： 独自教材（ハンドアウト）		
評価方法： 課題、受講態度、出席		

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級Ⅰ」、「日本語初級Ⅲ」を週1コマずつ設け、2023年10月第2週から2024年1月まで15週間開講する。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験N5レベルとする。

「日本語初級Ⅲ」は、初級前半を学習した学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験N4レベルとする。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級Ⅰ	今井 多衣子	木曜日 5限
授業内容：	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第1課～第13課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『かな入門』	
評価方法：	期末試験、出席、課題・受講態度	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級Ⅲ	今井 多衣子	木曜日 4限
授業内容：	初級前半を学習している学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級中期から後期にかけての基本的な文法、文型、語彙を習得し、日常的な場面での会話ができるようになる。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ』第21課～第25課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ』第26課～第33課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

4.2 共通教育開講科目

(1) 地域文化理解

「地域文化理解」の授業は、第2学期に共通教育社会分野科目において開講された。本授業は事前・事後学習並びに体験学習を通して地域の現状や課題・地域の取り組みを理解し、多文化共生社会において、どのように地域振興を推進していくべきか、学生の目線から課題を見付け、その解決策を考え、地域の活性化を目指す地方創生への寄与を目的としている。また、このような一連の活動から得た学びを地域に還元する仕組みの構築を目指している。

2023年度は、通常の対面授業に戻り、受講生19名（留学生10名・日本人学生9名）による国際共修授業が行われた。また、体験学習も体験先の協力を得てカリキュラム通り3回実施した。授業の前半は地域の現状及び課題を認識するため、講義で学ぶとともに、高校生や中山間地域住民との交流を中心とした体験学習が行われた。授業の後半では多文化共生社会における地域振興を中心に学びを深め、外国人社員を積極的に採用している県内企業を見学するとともに交流活動を通じた体験活動が行われた。

受講生の終了アンケート評価の結果、一連の授業の活動の満足度は5段階評価中4.7で高評価を博した。本授業を通して受講生個々人が地域の現状や課題を認識し、自分事として地域との互惠関係の構築や多文化共生社会における地域振興・地方創生についての解決策を提案するに至ったと言える。



高知県立安芸高等学校生徒との交流の様子



廣瀬製紙株式会社社員との交流の様子



大豊町にて餅つき体験



旧立川番所書院にて大豊町地元住民と記念写真

(2) サマープログラム (Japanese Studies I / II)

概要：本学学生と協定校学生の交流を通じ、キャンパスの国際化を図ることを目的として、2023年7月3日(月)～28日(金) (4週間)に高知大学サマープログラムを実施した。共通教育科目「Japanese Studies I/II」(各2単位・集中講義)として開講し、計14名が履修した。本学学生8名に加え、米国の協定校のカリフォルニア州立大学フレズノ校(以下、フレズノ)から3名、英国の協定校のセントラルランカシャー大学(以下、UCLAN)から1名が短期交換留学生として参加するとともに、スウェーデンの協定校のイエーテボリ大学からの交換留学生2名も参加した。本プログラムは英語で実施され、参加学生は、日本語及び日本文化について学ぶとともに、高知県内各地へのフィールドトリップを通じて、高知県における持続可能な観光分野での取り組みについて学んだ。また、フィールドトリップを通じて得た学びについて、プログラム最終日にグループプレゼンテーションを行った。

プログラム内容：

1) 日本語(初級)及び(中上級)(各16コマ)

日本語の学習レベルに応じ、フレズノからの留学生3名を初級、UCLANからの学生1名を中上級クラスに振り分け、授業を行なった。初級のクラスでは教科書として『まると』を使用し、日本の文化を通じて自然な日本語が学べるよう工夫した。中上級クラスでは、日本における留学生の就職事情を学ぶとともに、日本人学生とロールプレイをしながら、ビジネスシーンで有効なコミュニケーション方法を実践的に身につけた。それぞれのクラスには本学学生も参加し、一緒に会話練習を行なうなど留学生の日本語学習をサポートした。

2) 日本文化(4コマ)

・7/4(火) 日本映画(講義)

センター教員による講義で、日本映画の歴史や多様な作品を紹介した。

・7/7(金) 尺八(ワークショップ)

外部講師を招き、日本の伝統楽器である尺八の歴史や演奏方法などを学んだ。

・7/11(火) 生け花(ワークショップ)

生け花に関する説明や外部講師によるデモンストレーションの後、各学生が実際に生け花を制作した。

・7/14(金) 剣道(ワークショップ)

本学教員から基礎的な剣道の心構え、礼儀、動きを学び、各学生が竹刀を持って実践した。

3) フィールドトリップ(5日間)

・7/15(土) 香南市赤岡町 絵金蔵及び絵金祭り見学

赤岡町で毎年開催されている絵金祭り（江戸後期の絵師・絵金の屏風絵などを町内の通り沿いに展示。県内外から多くの人々が訪れる）を訪問し見学した。町民が主体となり、工夫をこらした町おこしの取り組みが行われている様子（町民歌舞伎、酒蔵等）を視察した。

・7/16（日）～17（月） 土佐清水市及び宿毛市大月町

16日は足摺岬国立公園、大月町文化教育交流施設 COSA を訪問した。COSA は、廃校となった小学校を改装した施設で、地域住民との教育交流や自炊、宿泊ができる施設が完備している。そこで、COSA 運営メンバーより同施設における海洋生物保護の取り組みや教育活動について学んだ。17日は観光スポットとして人気の大月町柏島にてシュノーケリングを行い、海中の様子を観察した。

・7/22（土）高知市 桂浜及び五台山

高知県の主要な観光スポットである桂浜、五台山の竹林寺、牧野植物園を訪問し、高知県の歴史や文化について学んだ。一部の学生は竹林寺で写経を体験した。

・7/23（日）安芸市及び室戸市

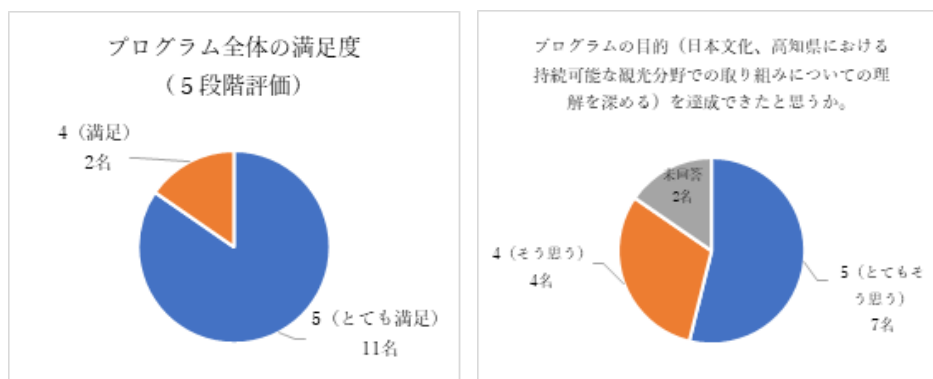
安芸市の伊尾木洞を訪問し、地元の方からエコ・ツーリズム実現に向けた取り組みについて学んだ。室戸市では、ユネスコジオパークに認定されている室戸岬、廃校を利用した施設であるむろと廃校水族館を視察した。自然や廃校といった資源をどのように観光に生かし、先進的な取り組みを行なっているかについて学んだ。

4) グループワークオリエンテーション及び最終プレゼンテーション（4コマ）

学生たちは4つのグループに分かれ、フィールドトリップの視察先を一つ選択し、「持続可能な観光」という視点から分析し、持続可能な観光の実現に向けたプロポーサルなどを盛り込んだプレゼンテーションを行なった。学生からは SNS を使ったより効果的な発信など広報に関する提案がいくつかあったため、来年度以降のフィールドトリップでは訪問先の施設と学生が協力し、より効果的な広報展開のための意見交換をし、コンテンツ制作などの活動を含めることも一案として考えられる。

参加学生による本プログラムへの評価（実施後アンケートより）

プログラム終了後、参加学生に対しアンケートを実施したところ、主な回答結果は以下のとおりとなった（参加者14名のうち13名が回答）。



(学生コメント)

- フィールドトリップがとても素晴らしかった。安全でフレンドリーな環境で、本プログラムに参加したことは最高の思い出になった。(フレスノの学生)
- 交換留学生と高知大生と一緒に楽しむことのできるアクティビティがたくさんあった。交換留学生と話す機会がたくさんあったことも良かった。(本学学生・人文社会科学部4年/男性)
- 英語に親しむことができ、日本語を教えるという体験もできた。自信を持って英語で話せるようになった。(本学学生・人文社会科学部3年/女性)
- たくさんの人に出会い、講義やフィールドワークなど素晴らしい時間を過ごすことができた。大学のスタッフはとてもフレンドリーで歓迎してくれ、問題があった時に手助けをしてくれた。(UCLANの学生)
- 色々な文化講座やフィールドワークがあり、日本人学生と交流し、日本や日本文化について学ぶ機会がたくさんあった。(フレスノの学生)
- 初めて留学生と交流するようなフィールドワークに参加することができて、非常に楽しかった。これからもこんなフィールドワークが続くと面白いのではないかと思う。(本学学生・農林海洋学部3年/女性)

今回、協定校からの短期留学者数は4名と人数としては多くなかったものの、一人一人の希望を聞き取りながらプログラムを設計したことにより、4名全員がプログラム全体の満足度5(非常に満足)と回答しており、「自分の大学の友人に本プログラムへの参加を薦めたいと思うか」という問いに対しても、4名全員が5(とてもそう思う)と答えている。

また、10名の学生が「本プログラムに参加し、中長期の海外留学(1学期以上)に関心を持った」と回答した。本プログラムは、本学学生と協定校の学生の交流を深める貴重な機会となっただけではなく、海外留学への関心を喚起する機会にもなっていることが認められ、本プログラムの波及効果が認められる。

プログラムの実施時期について、13名中11名が「今回の実施時期(7月)は適切であった」と回答している。7月は多くの協定校の夏季休暇期間にあたるため参加がしやすく、本学学生にとっても試験期間に被らず比較的参加しやすい時期なので、次年度以降も7月に実施するのが適当であると思われる。

(3) 短期留学プログラム（第 1 学期・第 2 学期）

「Short-term Study Abroad Program（短期留学プログラム）」は、海外における外国語学習及び異文化体験を通して、語学力の向上ならびに国際感覚の涵養を目指す海外実習を含む科目で、共通教育科目（集中講義）として開講される。渡航前に行う事前学習では、履修学生は滞在国の事情調査、渡航準備、基礎英会話などを学習するとともに、海外実習前の語学力を確認するためのアセスメントテストを実施する。海外実習では、学生は各自語学学校に通いながら、実践的外国語運用能力や異文化理解力を高める。帰国後、事後学習として英語のアセスメントテスト、レポート及びプレゼンテーションによる学習成果の報告を行う。昨年度まで開講していた「グローバルコミュニケーション」を、2023 年第 1 学期より科目名「Short-term Study Abroad Program」に改め、学生が自身の希望・予算に応じて、幅広い選択肢の中から海外実習先を選択できるようにした。

<第 1 学期>

人文社会科学部、理工学部、農林海洋学部など 11 名の学生が履修した。2023 年 5 月～7 月にかけて事前学習を行い、8 月～9 月、履修学生はオーストラリア（ケアンズ）の San Pacific College、同国（メルボルン）の Albright Institute、ニュージーランド（オークランド）の New Zealand Language Centres、マレーシア（クアラルンプール）の ELC Malaysia に 3～4 週間の日程で各自留学した。

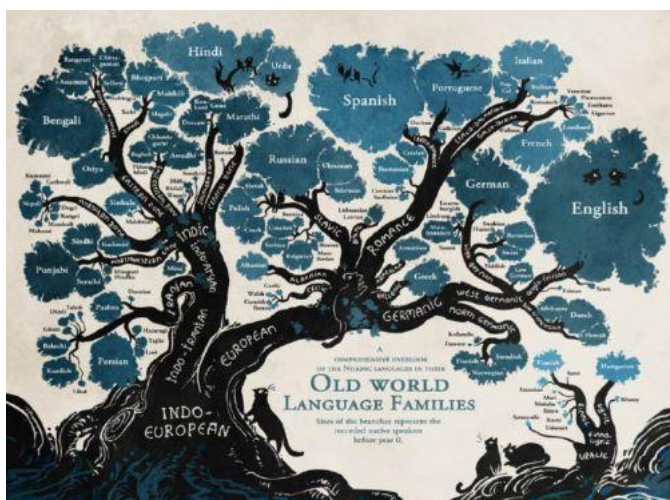
<第 2 学期>

人文社会科学部、医学部、農林海洋学部など 8 名の学生が履修した。2023 年 11 月～2024 年 1 月にかけて事前学習を行い、2～3 月、履修学生はオーストラリア（ブリスベン）の San Pacific College、イギリス（ブライトン）の Oxford International English、ニュージーランド（オークランド）の New Zealand Language Centres、マレーシア（クアラルンプール）の ELC Malaysia、アメリカ（サンフランシスコ）の EC San Francisco English School に 2～6 週間の日程で各自留学した。

このプログラムを運営した経験から学んだことのひとつは、より良いプロモーションの必要性である。そこで 2024 年度からは、新入生が大学に入学する前に、このコースに関する情報を掲載したパンフレットを配布することにした。

(4) GEASC 英語コース

これまで、新入生や新たな交換留学生の獲得における問題のひとつは、英語による授業が不足していることであった。また、高知大学の学生の多くは、そのようなコース、特にコミュニケーション能力を伸ばす機会を提供するコースの受講を熱望している。そのため、2023年におけるセンターの目的のひとつは、KUの学生と交換留学生の両方のニーズに対応できるよう、提供する語学教育の幅を広げ、英語媒体のコースを充実させることである。このため、2023年4月以降、共通教育科目またはキャリア科目として、新たに6つの英語媒体を導入した。



The Origins and Evolution of English (英語の起源と進化)は歴史言語学のコースで、中央ヨーロッパのインド・ヨーロッパ語族のルーツから、古語期、中語期、現代語期を経て、英語の進化をたどる。ドイツ語、フランス語、ラテン語、ギリシア語などの言語への主な影響、アルフレッド大王、チョーサー、シェイクスピア、ジョンソンなど、その発展における重要な出来事や人物、そ

して「Textspeak」のような最近の現象がすべて検証された。第1学期には21人の学生がこのコースを修了した。

このコースに付随する English as a Global Language (グローバル言語としての英語)では、国際共通語としての英語の発展を考察する。このコースでは、なぜ英語が世界で最も広く話される言語となり、30億人のユーザーがいると推定されるのか、その政治的、経済的、技術的、文化的な理由を探る。英語のピジン言語やクレオール言語、専門的な文脈における英語の使用、ELTにおけるネイティブ・スピーカー・モデルの限界など、さまざまなトピックについて学習する。このコースの主な目的は、ネイティブ・スピーカー・モデル

に焦点を当てることなく、国際コミュニケーションのための共有資源として、また異文化間コンピテンシーを育成するための手段として、学生たちに代替的かつ解放的な英語の見方



を紹介することである。今年度は、数名の留学生を含む36名の学生が、第1学期に開講されるこのコースを修了した。

KUの交換留学先の多くは、入学時にIELTS、TOEFL、英検準1級のスコアで英語力を証明することを義務付けている。必要なスコア（IELTSでは一般的に5.0～6.0）を取得するためには、ライティング課題の指導やフィードバックだけでなく、合格に必要な特定のスキルやストラテジーの指導が必要である。これまでは、このようなサポート、特にライティングの練習を学生が受けることは難しく、その多くは1対1の個別指導によってその場しのぎで行われてきた。このニーズに対応するため、現在では英語試験準備コースが第1学期または第2学期に開講されている。第2学期にこのコースを受講していた学生1名がIELTSで7.5を達成し、高知大学の学生としてはこれまでの最高スコアとなった。

留学から帰国した学生は、身につけた英語力を継続的に練習する機会を求めることが多い。そのような機会を見つけることは、特に3年生や4年生にとっては問題である。このような理由から、留学補助プログラムが導入された。このコースは、第1学期または第2学期に履修することができる。この授業はコミュニケーションに重点を置いており、参加者はペアワークによるスピーキング活動、留学経験や抱負についての口頭発表、センター新聞への記事執筆などに取り組んでいる。今年度の受講者の多くは、カナダ、マレーシア、イギリス、アメリカに短期留学した人たちであった。

English for Professional Communication（プロフェッショナル・コミュニケーション英語）コースは第2学期に開講される。Eメールの書き方、広報・マーケティング資料の作成、売り込みの仕方などを学ぶ。

International Media and Journalism（第2学期）は、世界のメディアとジャーナリズムについて学びたい人のためのコースである。このコースの講義では、印刷メディア、放送メディア、デジタル・メディアを取り上げ、グローバル・メディアの発展と進化、報道の自由、メディアの偏向、ジャーナリズムの基準、ニュースや特集記事の書き方に関する問題を検討する。学生は、グローバル教育支援センターの新聞に掲載するニュースや特集記事の執筆を实践する。

2024年度からは、新しいコース「異文化間コンピテンスの開発」を導入する予定である。このコースは、学生の参加を最大限に促し、批判的で内省的な思考を養うようデザインされた活動ベースのコースとなる。このコースは、短期・長期を問わず海外留学を計画している学生や、グローバル・コンピテンシーを身につけたいと考えている学生を特に対象としている。

5. その他

(1) 外国人留学生在籍状況

(令和5.5.1現在) (as of May 1, 2023)

国名・地名/所属	国費										私費										合計		総計
	学部		修士		博士		研究生等		計	学部		修士		博士		研究生等		計	男	女			
	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女						
																					男	女	
アジア	インドネシア				1	1			2							1	3	2	6	4	4	8	
	スリランカ								0							1			1	0	1	1	
	タイ							1	1										0	0	1	1	
	ネパール					1			1					2					2	3	0	3	
	バングラデシュ				1	3			4										0	3	1	4	
	フィリピン					2	6		8							2			2	2	8	10	
	マレーシア								0	5	6								11	5	6	11	
	ミャンマー						1		1										0	0	1	1	
	韓国		1						1	3	1	1		1			1	1	8	6	3	9	
	台湾								0		1						2	8	11	2	9	11	
	中国								0	7	2	9	5		1	5	8	37	21	16	37		
ヨーロッパ	スウェーデン							0								2		2	2	0	2		
アフリカ	イラン							0							1			1	0	1	1		
	ガーナ					1		1					2					2	3	0	3		
総計		0	1	0	2	8	7	0	1	19	15	10	10	5	5	6	13	19	83	51	51	102	
学部	人文社会科学部								0	3	8					5	13	29	8	21	29		
	教育学部							1	1							6	3	9	6	4	10		
	理工学部								0	10	1							11	10	1	11		
	医学部		1						1									0	0	1	1		
	農林海洋科学部								0	2	1							3	2	1	3		
	地域協働学部								0							1	2	3	1	2	3		
	土佐さきがけプログラム								0									0	0	0	0		
大学院総合人間科学研究科	人文社会科学専攻								0			8	3			1	12	8	4	12			
	教育学専攻								0						1	1	1	0	1				
	理工学専攻								0		1	1				2	1	1	2				
	医科学専攻								0							0	0	0	0				
	看護学専攻				1				1							0	0	1	1				
	農林海洋科学専攻				1				1		1	1				2	1	2	3				
	地域協働学部学専攻								0							0	0	0	0				
	応用自然科学専攻								0							0	0	0	0				
	医学専攻					3			3					1	1	2	4	1	5				
	黒潮圏総合科学専攻					3	6		9						3	3	3	9	12				
愛媛大学大学院連合農学研究科					2	1		3					4	2	6	6	3	9					
総計		0	1	0	2	8	7	0	1	19	15	10	10	5	5	6	13	19	83	51	51	102	

(2) 自律学習支援センター (OASIS) との連携

2022年10月にグローバル教育支援センターの設置を契機に、自律学習支援センター (Open-Access Center for Self-regulated Independent Study : OASIS) との連携体制の強化を進めてきた。OASISはこれまで、IELTS講座、TOEIC講座、eラーニングを活用した英語力向上プロジェクト、留学生や海外の大学生とのパートナーシップ・プログラムや交流会、セミナー等、様々な取組を行っており実績が構築されている。そのため、高知大生の留学促進、及び留学生との交流を通じたキャンパスの国際化を共に協力しながら進めていくことが求められる。

現在、多くの留学生たちは、パートナーシップ・プログラムや自主学習の場として頻繁にOASISを利用している。また、OASISの入り口の団欒スペースを活用して、日本人学生と留学生が集い、活発な交流ができています。これは、双方が互いに学びあう機会となり、キャンパスの国際化に寄与できていると考えられる。

グローバル教育支援センターは、OASISと協力して英語関連講座やセミナーの開催を行ってきた(資料1参照)。これは、「第4期中期目標・中期計画」で求められている、学生の語学力を強化し、学生の海外派遣数を増加させることに大いに関連する。また、協定校からの交換留学生を迎えるイベントを2022年そして2023年の9月に、OASISと協力して実施した(3.3を参照)。これは、学生が企画・計画したイベントであるが、全面的にセンターとOASISが連携を図り行った。このように、キャンパスで、高知大生と留学生が交流できる場の提供も今後積極的に実施していきたいと考えている。加えて、2024年度も、OASISと連携を図った語学力向上講座、グローバルセミナーの開催を実施していく予定である。

英語検定試験への支援プロジェクト

IELTS に関して

▶ 2023年度は、**共通教育科目** English Exam Preparatory Course が開講されます (1学期 金2)。IELTSだけでなく、TOEFL、英検などの受験を目指す学生を対象としています。

▶ 2学期はOASIS主催で**IELTS講座**を開講予定

講師
Michael Sharpe先生



目標の実現を応援します!

✓ TOEIC、英検準1級の対策講座への申込締切は **4月21日(金)15:00まで**

✓ 英検自主学習会とTOEFLは随時受付

申込は [こちらから](#) →



TOEIC 対策講座

▶ 日時: 5月12日~7月14日 (毎週金曜日3限)

▶ 現時点でのTOEICレベルを確認した上で、受講できるようにします。

▶ 場所: 後日参加者に連絡

▶ 定員: 35名

講師
橋本由紀子先生



2022年度に続き、今年も実施します。文法やリスニング、長文の苦手な方、ぜひ苦手をなくして、100点UPを目指しましょう。

英検準1級 対策講座

▶ 日時: 1次対策 5月11日・18日・25日
2次対策 6月15日・22日 (木曜日3限目)

▶ 場所: 後日参加者に連絡

▶ 講師: 橋本由紀子先生

英検 自主学習会

(場所: OASIS マルチメディア教室)

英語好きの学生が各週集まり、英検準1級以上の合格を目指す学習会です。英字新聞の読解や意見交換など、楽しみながら学習を進めていきます。誰でも参加可能♪OASISスタッフの英語サポートもあります。

問合せ:

noimai@kochi-u.ac.jp
今井典子(人文社会科学部)

oasis@kochi-u.ac.jp
自律学習支援センター (OASIS)

TOEFL 対策 (Speaking/Writing)

▶ 日時: 個別に希望時間を調整

▶ Speaking / Writingとも個別対応

▶ 場所: オンライン

Daniel さん



オーストラリア・マククローリー大学のインターン生のダニエルさんから1対1で、TOEFLスピーキングやライティングの指導を受けるチャンス!

資料: 語学力向上講座の案内(1学期)

参考資料

(1) 交流協定校一覧(大学間・部局間)

大学間協定一覧表(令和5年5月1日現在)

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	中心部局
1	ブラビジャヤ大学	インドネシア	2003/2/28	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
2	ボゴール農業大学	インドネシア	2007/3/1	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
3	スリウジャヤ大学	インドネシア	2008/3/11	学術交流	農林海洋科学部
4	タンジュンプラ大学	インドネシア	2010/2/1	学術交流及び学生交流	地域協働学部
5	リア外国語大学	インドネシア	2018/1/2	学術交流及び学生交流	教育学部
6	韓瑞大学校	韓国	2003/7/23	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
7	金剛大学校	韓国	2008/12/9	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
8	白石大学校	韓国	2010/3/25	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
9	明知大学校	韓国	2013/1/3	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
10	国立慶尚大学校	韓国	2013/3/4	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
11	東国大学校	韓国	2013/7/3	学術交流及び学生交流	教育学部
12	コンケン大学	タイ	1997/3/27	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
13	カセサート大学	タイ	2000/5/1	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
14	チェンマイ大学	タイ	2013/2/12	学術交流	農林海洋科学部
15	タマサート大学	タイ	2013/8/20	学術交流及び学生交流	理工学部
16	ラジャマンガラ工科大学	タイ	2018/12/28	学術交流	農林海洋科学部
17	国立中山大学	台湾	2007/5/14	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
18	東海大学	台湾	2007/10/18	学術交流及び学生交流	教育学部
19	中国文化大学	台湾	2010/1/20	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
20	国立東華大学	台湾	2013/8/27	学術交流及び学生交流	黒潮圏科学部門
21	国立高雄科技大学	台湾	2019/12/1	学術交流及び学生交流	地域協働学部
22	国立台湾海洋大学	台湾	2022/12/6	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
23	揚州大学	中国	1997/3/10	学術交流	農林海洋科学部
24	安徽大学	中国	2002/5/21	学術交流及び学生交流	教育学部
25	陝西科技大学	中国	2003/5/15	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
26	河南大学	中国	2006/4/10	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
27	天津師範大学	中国	2006/12/28	学術交流及び学生交流	教育学部
28	佳木斯大学	中国	2008/3/24	学術交流及び学生交流	医学部
29	北京語言大学	中国	2023/1/6	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
30	南京航空航天大学	中国	2009/11/12	学術交流及び学生交流	理工学部
31	上海海洋大学	中国	2010/10/15	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
32	常州大学	中国	2011/12/19	学術交流及び学生交流	理工学部
33	北京聯合大学	中国	2013/3/11	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
34	北京外国語大学	中国	2013/6/21	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
35	東北大学秦皇島分校	中国	2015/4/15	学術交流及び学生交流	教育学部
36	フィリピン大学	フィリピン	2005/11/24	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
37	ピコール大学	フィリピン	2006/3/31	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
38	パルティド州立大学	フィリピン	2017/12/18	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
39	カタンドゥアネス州立大学	フィリピン	2019/6/3	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
40	バタンガス州立大学	フィリピン	2020/3/16	学術交流	黒潮圏総合科学専攻
41	ハノイ科学大学	ベトナム	2002/7/2	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
42	ハノイ国立教育大学	ベトナム	2006/1/6	学術交流	農林海洋科学部
43	ハノイ科学工業大学	ベトナム	2012/11/1	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
44	タイグエン大学	ベトナム	2015/3/25	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
45	ビン大学	ベトナム	2018/3/29	学術交流	農林海洋科学部
46	マレーシアブトラ大学	マレーシア	2007/5/18	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
47	マレーシアサラワク大学	マレーシア	2009/11/24	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
48	アイルランド玉立外科医学院バーレーン医科大学	バーレーン	2013/3/21	学術交流及び学生交流	医学部
49	ガーナ大学	ガーナ	2015/9/9	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
50	クイーンズランド大学	オーストラリア	1980/10/1	学術交流	グローバル教育支援センター
51	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	2019/8/28	学術交流	人文社会科学部
52	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	2009/10/22	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
53	ロードアイランド大学	アメリカ	2015/6/17	学術交流及び学生交流	土佐さきがけプログラム
54	南マッドグロッシュ連邦大学	ブラジル	2012/3/13	学術交流及び学生交流	医学部
55	国立ポリテック工科大学 応用研究所, サルティジョ校	メキシコ	2003/9/8	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
56	サルティジョ工科大学	メキシコ	2003/9/9	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
57	セントラル・ランカシャー大学	英国	2022/6/20	学生交流	グローバル教育支援センター
58	サツカリ大学	イタリア	2023/3/13	学術交流及び学生交流	地域協働学部
59	南ボヘミア大学	チェコ	1999/6/23	学術交流及び学生交流	教育学部
60	チェコ科学アカデミー生物学センター	チェコ	1999/6/24	学術交流	教育学部
61	インランドノルウェー応用科学大学	ノルウェー	2017/12/22	学術交流及び学生交流	教育学部
62	クラクフ工科大学	ポーランド	2019/11/29	学術交流及び学生交流	地域協働学部
63	カザフ国立大学	カザフスタン	2018/2/27	学術交流及び学生交流	医学部

部局間協定一覧表(令和5年5月1日現在)

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	締結部局
1	釜山外国語大学校日本語大学	韓国	2007/3/8	学術交流・学生交流	人文社会科学部
2	高雄大学人文社会科学部	台湾	2016/9/21	学術交流・学生交流	人文社会科学部
3	開南大学人文社会学院	台湾	2016/11/29	学術交流・学生交流	人文社会科学部
4	淡江大学外国語文学部	台湾	2019/8/3	学術交流・学生交流	人文社会科学部
5	天津科技大学経済与管理学院	中国	2008/4/4	学術交流	人文社会科学部
6	イエテボリ大学人文学部	スウェーデン	2021/2/22	学術交流及び学生交流	人文社会科学部・教育学部
7	樹人医護管理専科学校応用日本語学科	台湾	2018/1/9	学術交流・学生交流	教育学部
8	モンゴル・ロシア共同学校	モンゴル	2012/6/5	学術交流・学生交流	教育学部(附属中学校)
9	ウィーン大学教員教育センター	オーストリア	2019/12/5	学術交流	教育学部
10	パレストラ体育スポーツ大学	チェコ共和国	2016/1/26	学術交流・学生交流	教育学部
11	ユニバーシティ・カレッジ・コペンハーゲン	デンマーク	2016/8/15	学術交流・学生交流	教育学部
12	ユバスキュラ大学教育学部	フィンランド	2015/12/10	学術交流・学生交流	教育学部
13	ザカリアス・トベリウス学校	フィンランド	2020/7/8	学術交流	教育学部
14	シアクアラ大学数学・自然科学部	インドネシア	2018/9/7	学術交流	理工学部
15	モナッシュ大学理学部	オーストラリア	2019/3/8	学術交流	農林海洋科学部・理工学部
16	パドバ大学理学部	イタリア	2010/1/20	学術交流	理工学部
17	ソクラーナカリン大学医学部	タイ	2017/7/27	学術交流・学生交流	医学部
18	国立台湾大学医学部	台湾	2011/10/11	学術交流・学生交流	医学部
19	首都医科大学口腔医学院	中国	2004/10/28	学術交流	医学部
20	マレーシアサイエンス大学分子医学研究所	マレーシア	2022/11/1	学術交流	医学部
21	ハワイ大学医学部	アメリカ	2010/2/10	学術交流・学生交流	医学部
22	タシュケント国立歯科大学	ウズベキスタン共和国	2019/5/2	学術交流・学生交流	医学部
23	セメイ国立医科大学	カザフスタン	2018/2/21	学術交流・学生交流	医学部
24	ディボネゴロ大学水産海洋科学部	インドネシア	2022/9/21	学術交流・学生交流	農林海洋科学部
25	タイ農業局	タイ	2018/4/24	学術交流	農林海洋科学部
26	浙江大学生物系統工程及び食品科学学院	中国	2011/4/18	学術交流・学生交流	農林海洋科学部
27	ブータン王国農業局	ブータン	2019/8/26	学術交流	農林海洋科学部
28	チェコ共和国科学アカデミー微生物学研究所	チェコ	2017/8/9	学術交流	農林海洋科学部
29	ラクイラ大学土木建設建築環境工学部	イタリア	2018/6/18	学術交流・学生交流	地域協働学部
30	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	韓国	2007/8/8	学術交流	海洋コア国際研究所
31	アイスランド大学地球科学研究所	アイスランド	2018/4/4	学術交流	海洋コア国際研究所
32	ウルビノ大学数理物質科学部	イタリア	2022/7/6	学術交流	海洋コア国際研究所
33	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン	2007/8/24	学術交流	黒潮圏科学部門

(2) 海外派遣学生一覧

2023年度の交換留学については以下のとおりです。

【交換留学生(受入)】

2023年4月～	6名	
2023年7月～	5名	※
2023年8月～	15名	※
2023年10月～	26名	
2024年1月～	1名	
2024年2月～	2名	
合計	55名	

※は在留資格「短期滞在」での受入れ

【交換留学生(派遣)】

2023年8月、9月～	8名
2023年1月、2月、3月～	8名
合計	16名

令和5(2023)年度
高知大学
グローバル教育支援センター年報

令和6(2024)年3月発行

高知大学グローバル教育支援センター

〒780-8520 高知市曙町2丁目5番地1

✉ global-education@kochi-u.ac.jp

☎ 088-844-8781